

令和3年度「めざそう値」の実績値から見る
「第2次島田市総合計画前期基本計画の進捗状況の評価」について（報告）

1 総合計画の評価について

総合計画に基づいて実施される施策・事業について、評価指標「めざそう値」を設定し、PDCAサイクルに基づく進行管理を行っている。

この度、第2次島田市総合計画前期基本計画（4年間）の計画期間を終えたことから、令和3年度のめざそう値の実績値をもとに、計画の進捗に対する評価を行った。

2 達成率から見る進捗状況の評価方法について

令和3年度の「めざそう値」の達成率を4つの区分で分類

A評価（100%以上）・・・めざそう値を達成したもの

B評価（80%以上100%未満）・・・めざそう値に達していないが、一定の進捗があったもの

C評価（0%より大きく80%未満）・・・めざそう値に達しておらず、基準値（基準値が無い場合は、参考値もしくは初年度の実績値）よりも進捗はしているが、B評価には及ばないもの

D評価（0%以下）・・・基準値（基準値が無い場合は、参考値もしくは初年度の実績値）以下であるもの

新型コロナウイルス感染症 実績に新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、評価の影響により評価不可 ができないもの

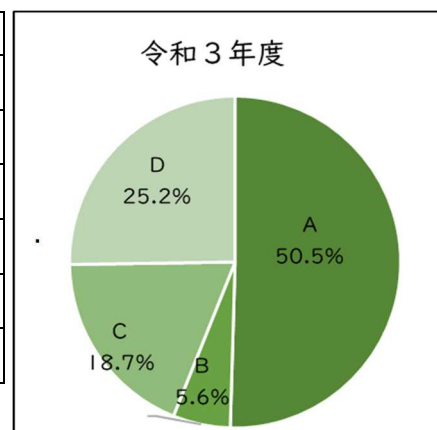
3 第2次島田市総合計画前期基本計画の進捗状況の評価結果について

■全体指標「市民意識調査「幸福感」における市民の感じる幸福度」について

H28年度 (基準値)	H29年度 実績値	H30年度 実績値	R1年度 実績値	R2年度 実績値	R3年度 実績値	目標値	参考 (全国平均)
6.6	6.6	6.5	6.7	6.8	7.0	7.0	6.4

■「めざそう値（139項目）」の達成率評価の集計（）内は割合

評価区分	前年度	R3年度
A評価	37 (26.6%)	54 (50.5%)
B評価	12 (8.6%)	6 (5.6%)
C評価	41 (29.5%)	20 (18.7%)
D評価	43 (30.9%)	27 (25.2%)
評価不可	なし	32
評価なし	6 (4.3%)	なし



4 公表のスケジュール及び方法について

10月中旬に市のホームページで公表する予定

令和3年度めざそう値の実績値から見る

「第2次島田市総合計画前期基本計画の進捗状況の評価」

令和4年9月

島 田 市

【全体指標】

市民意識調査「幸福感について」における市民の感じる幸福度 (10点満点評価の平均値)

平成28年度 (基準値)	平成29年度 実績値(参考)	平成30年度 実績値	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	令和3年度 実績値	目標値 (めざそう値)	参考 (全国平均)
6.6	6.6	6.5	6.7	6.8	7.0	7.0以上 かつ 全国平均点以上	6.4

※全国平均は平成26年度版厚生労働白書参照

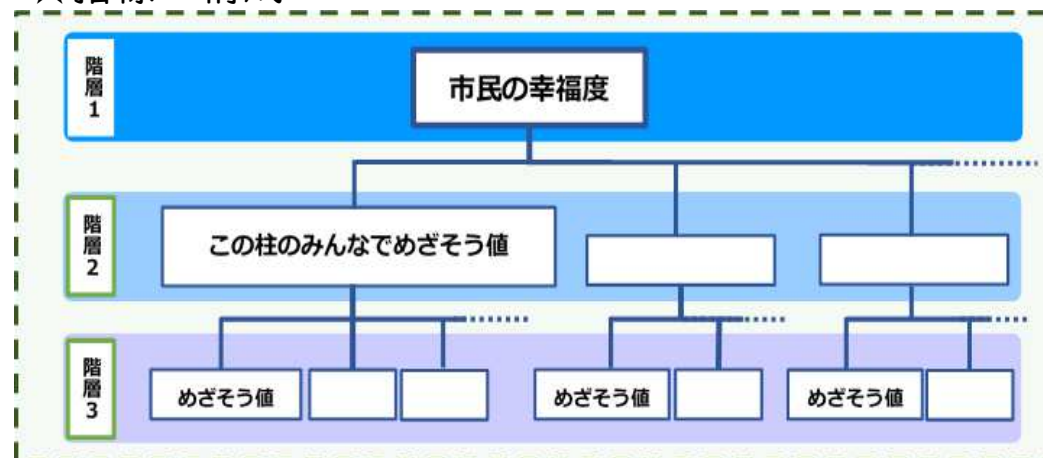
指標と目標値について

【階層1】第2次総合計画前期基本計画のすべてを包含する目標として、「市民の幸福度」を最上位に設定しています。

【階層2】主要な取組を包含するものとして、施策の柱ごとに設定しています。

【階層3】主要な取組の進捗を測るものとして、施策単位ごとに設定しています。

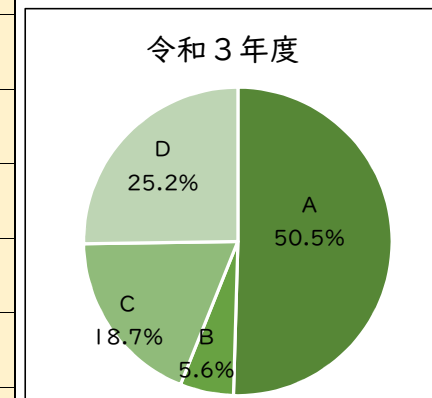
☆指標の構成



総合計画全体 進捗率評価 集計表

政策分野	A	B	C	D	評価不可	評価なし	項目数
政策分野1（安全ですこやかに暮らせるまちづくり）	14 (10)	3 (4)	3 (10)	3 (4)	5 (0)	0 (0)	28
政策分野2（子育て・教育環境が充実するまちづくり）	7 (6)	0 (1)	1 (3)	7 (11)	10 (0)	0 (4)	25
政策分野3（地域経済を力強くリードするまちづくり）	6 (5)	0 (1)	5 (6)	4 (7)	4 (0)	0 (0)	19
政策分野4（住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり）	11 (7)	1 (1)	4 (8)	5 (5)	2 (0)	0 (2)	23
政策分野5（歴史・文化かがやく、人が集まるまちづくり）	5 (6)	0 (0)	2 (2)	2 (5)	4 (0)	0 (0)	13
政策分野6（ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり）	6 (1)	1 (1)	4 (8)	3 (6)	2 (0)	0 (0)	16
政策分野7（人口減少社会に挑戦する経営改革）	5 (2)	1 (4)	0 (4)	4 (5)	5 (0)	0 (0)	15
合 計	54 (37)	6 (12)	20 (41)	27 (43)	32 (0)	0 (6)	139

※カッコ()の数字は令和2年度評価実績



【概要】

- ・ 実績に新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている項目は、評価不可としています。
- ・ めざそう値は、A評価が50.5%（評価可能な107項目中54項目）でした。
- ・ 政策分野レベルでA評価が50.0%以上を占めたのは、政策分野1、4、5、7でした。
- ・ 実績値が基準値（基準値がない場合は参考値もしくは初年度の実績値）未満であるD評価は25.2%（評価可能な107項目中27項目）でした。

前期4年間の評価について

4年間の評価の推移から、政策分野ごとの指標達成の要因を評価します。

政策分野1 安全ですこやかに暮らせるまちづくり

評価	H30	R1	R2	R3
A	8	9	10	14
B	6	5	4	3
C	7	9	10	3
D	7	5	4	3
評価不可	0	0	0	5

A評価の割合が最も多くなっており、計画的な事業展開ができたものと考えられます。特に、島田市立総合医療センターの完成や医師数の確保等により、「医療の充実」における市民満足度が上昇したことは、市民の安全ですこやかな暮らしの実現につながったものと考えます。

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり

評価	H30	R1	R2	R3
A	9	9	6	7
B	3	1	1	0
C	3	7	3	1
D	10	7	11	7
評価不可	0	0	0	10
評価なし	0	1	4	0

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、事業進捗がみられなかったD評価や評価不可の割合が大きくなっています。しかし、島田市版ネウボラを始め子育てを温かく見守る環境づくりや安心できる母子保健体制等を整えたことにより、「保育環境の充実や子育てへの支援」における市民満足度が上昇し、このまちで安心して子どもを生み、育てていける環境づくりが進められたと考えます。

政策分野3 地域経済を力強くリードするまちづくり

評価	H30	R1	R2	R3
A	3	4	5	6
B	3	2	1	0
C	7	7	6	5
D	6	6	7	4
評価不可	0	0	0	4

A評価が一番多いものの、最終評価はC、D評価が60.0%となっています。内陸フロンティア推進区域における造成工事及び企業立地の進行、「KADODE OOIGAWA」や「TOURIST INFORMATION おおいなび」によるにぎわいの創出といった目に見える成果により、地域経済を力強くリードするまちづくりは一定程度市民が体感できたものと考えます。

政策分野4 住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり

評価	H30	R1	R2	R3
A	11	10	7	11
B	2	4	1	1
C	5	5	8	4
D	5	4	5	5
評価不可	0	0	0	2
評価無し	0	0	2	0

実績に大きな変化が見られませんが、最終評価についてはA評価が47.8%と最も多くなっています。SDGsの認知度が大きく上昇している中、令和3年3月の「ゼロカーボンシティ」の表明、リニア中央新幹線整備工事に対する大井川水資源保全に関する取組は、市の環境保全に対する姿勢を広く示すことができたと考えます。また、住みごこちがよいと感じる市民の割合は高い水準を維持しながら上昇を続けており、自然とともに生きる住みよい生活環境づくりが進められたと考えます。

政策分野5 歴史・文化かがやく、人が集まるまちづくり

評価	H30	R1	R2	R3
A	4	4	6	5
B	3	3	0	0
C	2	2	2	2
D	4	4	5	2
評価不可	0	0	0	4

新型コロナウイルス感染症の影響により市民活動については大きな制限を受けましたが、A評価の最終評価割合の割合としては55.6%となっています。令和2年度に策定した「島田市文化芸術推進計画」に基づいた芸術文化普及事業、市民文化祭の開催、文化団体への支援、文化施設の管理運営等に取り組み、また、蓬萊橋、川越遺跡及び諏訪原城といった歴史・文化資源の活用を進め、「文化活動への支援」の市民満足度や「歴史を活かしたまちづくり」の市民満足度は高い評価となっており、島田市の歴史・文化のすばらしさを、より市民の方が感じることができたものと考えます。

政策分野6 ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり

評価	H30	R1	R2	R3
A	3	3	1	6
B	3	2	1	1
C	6	7	8	4
D	4	4	6	3
評価不可	0	0	0	2

A評価の最終評価の割合としては37.5%となっています。幹線道路や広域幹線道路の整備については計画的に進められています。また、市民要望に応じた市道の整備、上水道に係る老朽化した水道管の更新や配水池の整備などにより、「安心して暮らせる居住環境の整備」の市民満足度は向上し、市民が快適に日常生活を送ることができる都市基盤の整備が進められたものと考えます。

政策分野7 人口減少社会に挑戦する経営改革

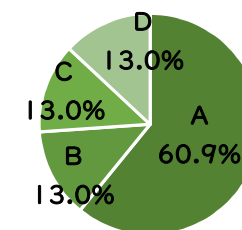
評価	H30	R1	R2	R3
A	2	2	2	5
B	5	5	4	1
C	3	4	4	0
D	5	4	5	4
評価不可	0	0	0	5

最終評価については A 評価が最も多くなっています。令和元年度のデジタル変革宣言後、DX 推進課の新設、島田市公式 LINE アカウントからのプッシュ型の情報発信の開始、スマートフォンで子育てに関する手続きができる島田市子育て支援プラットフォーム「しまいく+（ぷらす）」の開設等デジタル技術の活用を進めたことにより、市民の視点に立った効率的・効果的な行政運営が図られるとともに、住民サービスの質の向上ができたものと考えます。

政策分野別 進捗率評価 集計表

政策分野1 安全ですこやかに暮らせるまちづくり

施策の柱		この柱の めざそう値	A	B	C	D	評価不可	項目数
1-1	ここに住むすべての人の安全な生活を守る	A	2	1	1	0	2	6
1-2	健康で自分らしく暮らす	A	6	1	0	0	1	8
1-3	生涯を通じて誰もが生きがいをもち安心して暮らす	A	5	0	0	2	1	8
1-4	弱い立場の人を支えあう	C	1	1	2	1	1	6
小 計			14	3	3	3	5	28

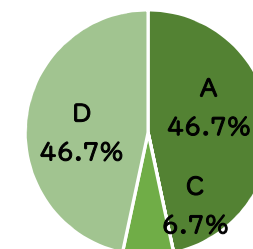


【概要】 ※この柱のめざそう値が評価不可の場合、（）内に評価基準に則り算定した評価を記載しています。

- 政策分野1のめざそう値は、A評価が60.9%（評価可能な23項目中14項目）です。
- 施策の柱1-1（危機管理・防災・消防）では、この柱のめざそう値「防災メール登録者数」と「静岡県ふじのくにジュニア防災士認定数」がA評価となっています。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「地域の防災訓練参加率」及び「関係機関との合同訓練等の連携団体数」が評価不可となっていますが、新しい生活様式に応じた手法等を取り入れたことにより、市民の防災意識の向上、防災体制の強化を進めることができたと考えます。
- 施策の柱1-2（健康づくり・地域医療）では、全ての項目がB評価以上、うち6つがA評価であり、全体として基準年度よりも好転していると判断できます。特に、この柱のめざそう値「市民意識調査『健康の増進』における市民満足度」はめざそう値を大幅に上回っており、健康に関する市民意識の高さ、市の施策への評価の高さが伺えます。R3年度に開院した総合医療センターに係る評価も、A評価2、B評価1と高い結果となっています。
- 施策の柱1-3（高齢者・介護）では多くの項目がA評価となり、この柱のめざそう値「市民意識調査『高齢者の医療・介護・福祉の充実』における市民満足度」もA評価であることから、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも超高齢社会に対して地域全体で助け合い、住み慣れた地域で自分らしく生活することができる環境づくりが着実に進んでいるものとみられます。しかし、「要介護・要支援認定率」はD評価となっており、介護認定に関するものについては課題がある結果となりました。
- 施策の柱1-4（地域福祉・障害福祉）では、「市民意識調査『障害者が生活しやすい環境づくり』における市民満足度」がA評価、「計画相談支援の利用者数」がB評価であり高い評価となった一方、その他の項目はC、D評価に留まりました。また、環境としての評価は高いですが、具体的な支援体制や制度の構築についての評価が低いという結果となりました。
- 政策分野1では、「危機管理・防災・消防」、「健康づくり・地域医療」、「高齢者・介護」の分野の評価が高い結果となり、安全で健やかに暮らせるまちづくりが推進できたと考えます。「地域福祉・障害福祉」の分野においてはA評価が1つのみで他の柱と比較して低い結果となっており、今後の取組方法等について課題が残る結果となりました。

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり

施策の柱		この柱の めざそう値	A	B	C	D	評価不可	項目数
2-1	子どもを生み育てやすい環境をつくる	A	3	0	0	1	1	5
2-2	地域ぐるみの教育環境をつくる	D	2	0	1	2	0	5
2-3	豊かな心を育む教育を進める	D・A	1	0	0	2	3	6
2-4	地域で学びの力を発揮する人材を育てる	(D)	1	0	0	1	3	5
2-5	生涯スポーツを楽しむ人を増やす	D	0	0	0	1	3	4
小 計			7	0	1	7	10	25

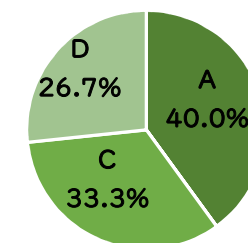


【概要】 ※この柱のめざそう値が評価不可の場合、() 内に評価基準に則り算定した評価を記載しています。

- 政策分野2のめざそう値は、A評価が46.7%（評価可能な15項目中7項目）です。
- 施策の柱2-1（子育て）では、取組内容の精査により1つの項目がD評価となったものの、「保育所等の年度当初における待機児童数」及び「子育て世代包括支援センターてくてくの相談件数」はA評価となっており、コロナ禍においても効果的な支援ができていたと考えられます。また、この柱のめざそう値「市民意識調査『保育環境の充実や子育てへの支援』における市民満足度」はめざそう値を大きく超えるA評価となっており、島田市が力を入れてきた子育て施策の取組が評価されています。
- 施策の柱2-2（学校支援・子供支援）では、「学校支援地域本部事業等ボランティア活動延べ人数」がめざそう値を大幅に上回るA評価となり、地域ぐるみの教育環境形成につながったと考えます。その他の項目については、事業効果がすぐに表れにくいものが多く、C、D評価が多くなっていますが、家庭・地域・学校が一体となった地域の教育力向上を実現していくためには風土づくりが重要であることから、目先の結果にとらわれず長期的な視点を持つ必要があります。
- 施策の柱2-3（義務教育）では、小・中学生に対するアンケート結果を指標としているものが多く、評価結果に関わらず基準値が80～90%と高いため、めざそう値も高く設定していますが、コロナ禍にも関わらず、子どもたちによるアンケート結果が高水準を維持しているのは十分な成果が表れていると評価できます。また、「不登校児童・生徒におけるチャレンジ教室登録者の割合」及び「学校給食における島田市産農産物の使用割合」については、新型コロナウイルスの流行、島田市産米の不作といったやむを得ない外的要因により評価不可またはD評価となっています。
- 施策の柱2-4（社会教育）では、「しまだ楽習センター『ふれあいしまだ講座』受講者満足度」がA評価となっておりますが、その他の項目についてはD評価または評価不可となっています。特に、この柱のめざそう値である「生涯学習の成果を発表した人の数」については顕著に影響を受けており、今度の学習の成果を発表する方法について検討が求められます。新しい生活様式が浸透したことにより、ライフステージに応じた多種多様な学習機会の提供方法を見直していき、未来の島田を担う人材の育成に取り組んでいく必要があります。
- 施策の柱2-5（スポーツ活動）では、ほとんどの取組が新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、評価不可となりました。しかし、「市主催スポーツ大会への参加者数」、「ニュースポーツ教室の延べ参加者数」、「施設利用者数」については、感染症対策を講じながら開催方法や管理方法等を検討したことによって、R2年度よりもR3年度の方が実績を向上させることができました。
- 政策分野2は、島田市が力を入れている子育て施策が高く評価されたものの、特に「社会教育」、「スポーツ活動」の分野では新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、思うように取組ができない結果となりました。市民一人ひとりが生涯を通じて学びによる自己実現を図り、地域社会で活躍できる環境づくりを進めるとともに、年齢や障害の有無に関わらず多くの市民がスポーツに親しむ機会を提供し、子育て・教育環境を充実させていきます。

政策分野3 地域経済を力強くリードするまちづくり

施策の柱		この柱の めざそう値	A	B	C	D	評価不可	項目数
3-1	雇用の創出や新技術の導入により地域経済を発展させる	C・C	2	0	2	0	1	5
3-2	世界に誇れる技術を持った中小企業を育てる	D	1	0	0	2	0	3
3-3	商店街や個店を支援し、地域のにぎわいを生み出す	(C)	2	0	1	0	1	4
3-4	地域の特色を活かした農林業を進める	D	0	0	2	2	0	4
3-5	人と地域の魅力を伝える観光施策を進める	(D)	1	0	0	0	2	3
小 計			6	0	5	4	4	19

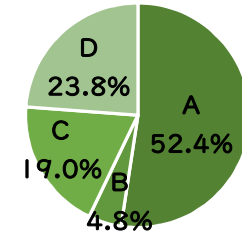


【概要】 ※この柱のめざそう値が評価不可の場合、() 内に評価基準に則り算定した評価を記載しています。

- 政策分野3のめざそう値は、A評価が40.0%（評価可能な15項目中6項目）です。
- 施策の柱3-1（地域経済）では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、この柱のめざそう値である「企業立地件数」と「企業立地に伴う新規雇用者数」がC評価、「観光振興活動支援件数」が評価不可となりました。一方で、産業支援センターでは、事業者からの多種多様な相談に対応するために多くの支援機関と積極的に連携し、多彩な専門家による相談体制を構築したことで、「産業支援センターの個別相談における満足度」がめざそう値を大幅に上回るA評価となりました。なお、この柱のめざそう値の「企業立地件数」と「企業立地に伴う新規雇用者数」については、企業用地の不足や新型コロナウイルス感染症の影響などが原因であるため、今後企業用地を確保していく必要があります。
- 施策の柱3-2（工業）では、この柱のめざそう値である「設備投資等支援による目標効果達成企業数」、「販路拡大による成約件数」の2項目がD評価及び評価不可となりました。これは、国・県の支援体制が充実しており島田市の支援制度の活用が少なくなったことや、新型コロナウイルス感染症の影響で補助金制度を廃止したことが要因となっています。中小企業をとりまく状況がめまぐるしく変化していく中、ビジネス環境の変化や新たなビジネスニーズに対応できる支援を展開していく必要があります。
- 施策の柱3-3（商業）では、「商業のにぎわい創出支援件数」、「買い物弱者対策 買い物事業参加者数」がA評価となりました。一方で、この柱のめざそう値である「中心市街地の歩行者数」、「空き店舗改善数」は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け評価不可及びC評価となっていますが、新型コロナウイルス感染症拡大の中であっても、LINEクーポン事業や島田駅前活性化イベントを実施してにぎわい創出を図ったことで、昨年度よりも実績が好転しています。このまちの活力を充実させるため、個店の充実や中心市街地のにぎわいづくりに継続して力を入れていく必要があります。
- 施策の柱3-4（農業・林業）では、全ての項目がC、D評価となりました。特に、この柱のめざそう値である「担い手への農用地の集積率」、「認定農業者数」については、高齢化や後継者不足、市の主幹産業である茶価の低迷など厳しい状況が継続しているため、数値を下げD評価となっています。こういった厳しい状況下ではありますが、豊かな自然を背景に発展してきた農林業を振興し継承させていくため、担い手の育成と農地の集積・集約化、農林業の基盤整備を進めるとともに、6次産業やスマート農業にチャレンジする生産者を支援することで、地域の特性を活かした「稼ぐ農林業」を目指していく必要があります。
- 施策の柱3-5（観光）では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、人の流れを計る「観光交流客数」のほか「蓬莱橋利用者数」が評価不可となりました。一方で、再構築を契機に市公式ホームページへのアクセス数が増加し、「市内観光地の認知度（市観光ホームページのアクセス件数）」がA評価となりました。R3年度においては、特に蓬莱橋、伊太和里の湯の貸し切り風呂に関するアクセスが大幅に増加しています。多様な主体と今ある地域資源・観光資源をさらに磨き上げ、更に魅力的なものとするとともに、ターゲットを明確にした効果的なマーケティングを展開することにより、一層の観光振興を図ります。
- 政策分野3は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、全体的にC、D評価が多い結果となっています。環境の変化、事業者側のニーズ、消費者側のニーズの変化が激しい中、状況を的確に捉え、商工業・農林業・観光のすべての産業で「稼ぐ」をキーワードに、持続可能な地域経済を目指していきます。

政策分野4 住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり

施策の柱		この柱のめざそう値	A	B	C	D	評価不可	項目数
4-1	地球環境の保全に貢献する	A	3	1	1	0	0	5
4-2	みどり豊かな自然を守り育む	D	1	0	1	2	0	4
4-3	水資源と水環境を守る	C	1	0	1	2	0	4
4-4	住みよい生活環境をつくる	A	6	0	1	1	2	10
小 計			11	1	4	5	2	23

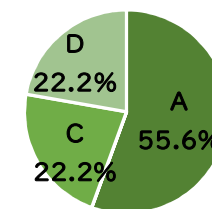


【概要】 ※この柱のめざそう値が評価不可の場合、() 内に評価基準に則り算定した評価を記載しています。

- 政策分野4のめざそう値は、A評価が52.4%（評価可能な21項目中11項目）です。
- 施策の柱4-1（新エネルギー・再生可能エネルギー・低炭素社会・資源循環型社会）では、この柱のめざそう値「市民意識調査『地球環境対策や自然環境保全』における重要度」、「市民意識調査『ごみ・リサイクル対策』における重要度」及び「COOL CHOICE賛同者数」がA評価となりました。2020年のゼロカーボンシティ宣言や、SDGsの認知度上昇もあり、市民の環境に対する意識の高まりが感じられます。この意識の高まりを大きなチャンスとして捉え、具体的な取組につなげていく必要があります。
- 施策の柱4-2（農地保全・森林環境・緑化活動）では、この柱のめざそう値「森林整備面積」、「再生利用が可能な荒廃農地面積」がD評価となりました。新型コロナウイルス感染症の拡大、世界情勢の変化、従事者の高齢化や後継者不足といった厳しい状況ではあるものの、島田市の自慢である「山のみどり」「お茶のみどり」「まちのみどり」が映える空間を大切にしていくとともに、農地や森林のもつ公益的な機能の維持・回復を図っていく必要があります。
- 施策の柱4-3（水環境）では、「污水处理人口普及率」がA評価となったものの、その他の項目はC、D評価となりました。D評価となったのは「大井川の水環境に対する市民の関心度」と「市内河川調査における環境基準達成率」ですが、前者は視察会の参加希望者が島田市以外の自治体から多数の希望があったこと、後者は河川の流量が不足していたことがD評価となった主な要因となっています。水資源は市民生活や経済活動に欠くことのできないものであるため、水質の保全はもとより安定的な水量の確保を確実なものとしていく必要があります。
- 施策の柱4-4（住宅・防犯・公共交通・交通安全・消費生活・男女共同参画・人権）では、多くの項目がA評価となっています。また、この柱のめざそう値「住みごごちがよいと感じる市民の割合」も昨年度に引き続きA評価となるとともに、計画期間において毎年上昇を続けており、住みよい環境づくりが進められていると考えられます。一方、「地域公共交通利用者数」は新型コロナウイルス感染症と運行経費高騰の影響を複合的に受け、また、「人権啓発事業への参加者数」は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて評価不可となっており、今後の在り方や実施方法等について課題がある結果となりました。
- 政策分野4は、「新エネルギー・再生可能エネルギー・低炭素社会・資源循環型社会」、「住宅・防犯・公共交通・交通安全・消費生活・男女共同参画・人権」の分野ではA評価が比較的多くあったものの、「農地保全・森林環境・緑化活動」、「水環境」の分野では厳しい結果となりました。引き続き、住みよい生活環境を整備し、自然とともに生きるまちづくりを進めます。

政策分野5 歴史・文化かがやく、人が集まるまちづくり

施策の柱		この柱の めざそう値	A	B	C	D	評価不可	項目数
5-1	培われた歴史・文化で地域への理解と愛着を深める	(D)	2	0	0	0	3	5
5-2	島田を知り、好きになってもらう	D	1	0	0	2	1	4
5-3	人との連携・交流が生まれる地域をつくる	C	2	0	2	0	0	4
小 計			5	0	2	2	4	13

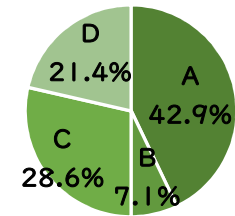


【概要】 ※この柱のめざそう値が評価不可の場合、()内に評価基準に則り算定した評価を記載しています。

- 政策分野5のめざそう値は、A評価が55.6%（評価可能な9項目中5項目）です。
- 施策の柱5-1（歴史・文化）では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「島田市博物館入館者数」及び「市民文化祭出展者、出演者、観客数計」が評価不可となりましたが、R3年度は魅力ある企画展の開催や感染拡大防止の徹底、ロビーコンサートの開催といった新たな取組などにより、実績を向上させることができました。また、「市民意識調査『歴史を生かしたまちづくり』における市民満足度」及び「市民意識調査『文化活動への支援』における市民満足度」はA評価となっているため、市の取組としては評価されていると考えられます。
- 施策の柱5-2（情報発信・シティプロモーション）では、「島田市公式SNSのフォロワー数」がA評価となりました。島田市LINE公式アカウントを始めとするSNSにおけるタイムリーな情報発信が効果的に実践できた結果と考えられます。一方、新型コロナウイルス感染症の影響でシティプロモーション活動が制限され、「都市の魅力度」及び「島田市の認知度」についてはD評価となりました。「地球上でもっとも緑茶を愛する街、島田」を知ってもらい、そして好きになってもらえるよう、今後も市内・市外のそれぞれに向けて効果的な情報発信を行っていきます。
- 施策の柱5-3（移住・国際交流・多世代交流）では、この柱のめざそう値である「県外からの移住件数」、「移住相談件数」がC評価となりましたが、コロナ禍であるにも関わらず、オンライン移住相談の開始、丁寧な現地案内等の実施、「住んでご島田」のリニューアルなどにより、R3年度の実績はこれまでで最も良いものとなりました。また、「市民意識調査『国際交流や都市間交流の推進』における市民満足度」がA評価であり、市の取組としても高い評価を得ていると考えられます。
- 政策分野5は、それぞれの柱のめざそう値の評価は低いものの、その他のめざそう値についてはA評価が多い結果となりました。今後も、島田市に数多くある素晴らしい地域資源や観光資源を多くの人に認知してもらい、島田市を訪れてもらう、島田市のことを好きになってもらうといった具体的な行動につなげていきます。

政策分野6 ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり

施策の柱		この柱の めざそう値	A	B	C	D	評価不可	項目数
6-1	安全で快適な生活基盤を整える	A	5	1	0	0	0	6
6-2	地域と地域の活発な交流を支える道をつくる	D	0	0	2	1	0	3
6-3	便利で魅力あるまちの拠点をつくる	A	1	0	2	2	2	7
小 計			6	1	4	3	2	16

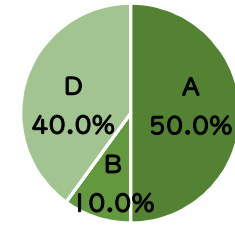


【概要】 ※この柱のめざそう値が評価不可の場合、() 内に評価基準に則り算定した評価を記載しています。

- 政策分野6のめざそう値は、A評価が42.9%（評価可能な14項目中6項目）です。
- 施策の柱6-1（生活道路・河川・公園・上下水道等・通信）では、すべての項目がA、B評価となりました。すべての項目において計画通りの事業進捗ができ、また「市民意識調査『安心して暮らせる居住環境の整備』における市民満足度」及び「市民意識調査『上下水道の整備』における市民満足度」の2つの市民満足度もA評価となっていることから、効果的な事業展開ができたものと考えられます。引き続き、市民が安全で快適に生活できる生活基盤を整えていきます。
- 施策の柱6-2（幹線道路）では、この柱のめざそう値「市民意識調査『主要な道路の整備率』における市民満足度」がD評価となるなど、低い評価となっています。市道、国道ともに計画的に進められていますが、開通とならなければその恩恵を受けることができないことが、評価が低かった主な要因と考えられます。今後も、幹線道路を整備することによって、陸・海・空が結節し、地域間の活発な交流から生み出される経済波及効果を、市内へ行き渡らせることに力を入れていきます。
- 施策の柱6-3（都市計画）では、この柱のめざそう値「市民意識調査『計画的な土地利用の推進』における市民満足度」がA評価となっています。一方、その他の項目はC評価以下となっており、厳しい結果となりました。「都市計画マスタープラン」や「立地適正化計画」に示されている「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方のもと、長期的な視点によるまちづくりを進めていく必要があります。
- 政策分野6は、昨年度よりもA評価が増加しており、特に「6-1安全で快適な生活基盤を整える」は非常に評価が高くなっています。逆に、「6-2地域と地域の活発な交流を支える道をつくる」は評価がC、D評価のみとなっています。幹線道路の整備や都市計画については事業効果が実感しづらい分野にはなりますが、市民の理解も得ながら、持続可能な都市構造への転換を目指していきます。

政策分野7 人口減少社会に挑戦する経営改革

施策の柱		この柱の めざそう値	A	B	C	D	評価不可	項目数
7-1	みんなの協力でまちをつくる	A	1	1	0	0	2	4
7-2	安定的・継続的な市民目線の行財政運営を進める	D	3	0	0	1	0	4
7-3	都市間連携による地域の活性化を進める	(D)	0	0	0	0	3	3
7-4	公共施設を賢く持って、賢く使う	D	1	0	0	3	0	4
小 計			5	1	0	4	5	15



【概要】 ※この柱のめざそう値が評価不可の場合、() 内に評価基準に則り算定した評価を記載しています。

- 政策分野7のめざそう値は、A評価が50.0%（評価可能な10項目中5項目）です。
- 施策の柱7-1（市民協働）では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「まちづくり支援事業実施件数」、「平和祈念式典参加者数」が評価不可となりました。しかし、後者においては、市内の高校生を実行委員として採用したことや式典のライブ配信を実施する等これまでの課題であった若い世代への情報発信に積極的に取り組みました。また、この柱のめざそう値「市民意識調査『市民の市政への参加の推進』における重要度」は、A評価となりましたが、「わからない」「無回答」を含む全体の実績値は伸びていないため、今後も継続して「協働のまちづくり」に取り組んでいく必要があります。
- 施策の柱7-2（行財政改革・人材育成・情報公開）では、この柱のめざそう値「行政経営戦略行動計画の達成度」がD評価となったものの、その他の項目についてはA評価となっています。その中でも、「電子申請システム手続種別件数」についてはめざそう値の2倍以上の実績となっており、「行政手続きのデジタル化」が進んだと考えられます。今後も、市民に対して柔軟で的確な行政サービスを提供していく必要があります。
- 施策の柱7-3（広域連携）では、全体的に人の動きが成果につながる項目が多く、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたことから、全ての項目が評価不可となりました。今後は、他の自治体と多様な分野、多様な形で連携し、社会情勢の変化に対応しながら効率的・効果的な取組により地域の活性化を進めるとともに、これまで友好関係を築き上げてきた国内外の都市との交流により、市の魅力を高めていきます。
- 施策の柱7-4（公共施設の保全・再編・利活用）では、「公的不動産の管理・活用に向け公民連携手法の導入を検討した案件の数」がA評価、残りの項目は全てD評価という結果になりました。「公共施設のあり方に関心を持っている市民の割合」については、金谷地区生活交流拠点整備運営への公民連携手法の導入、湯日小学校を始めとする学校施設跡地の利活用といった個別事業を推進しましたが、実績の向上にはつながりませんでした。今後高度経済成長期以降に集中的に整備した公共施設の老朽化が一斉に進行していくため、公共施設の保有量、管理費の適正化に努めていく必要があります。
- 政策分野7では、「市民協働」、「行財政改革・人材育成・情報公開」の分野で一定の評価がみられましたが、「広域連携」、「公共施設の保存・再編・利活用」の分野は厳しい評価となりました。今後、少子高齢化の更なる進行により、行政運営は一層厳しいものとなっていくことが見込まれます。そのような中でも人口減少社会に挑戦する経営改革を進めることで、これからも安心して住み続けられるまちであり続けます。

「めざそう値」の進捗率からみる評価について

■ 前期基本計画で設定した、R3年度を着地点とする「めざそう値」について評価をした。

■ 「めざそう値」に対する実績値で、A・B・C・Dの4段階で評価した。

<評価凡例>

- ・ A…R3年度の実績値がめざそう値を達成しているもの（100%≦進捗率）
- ・ B…R3年度の実績値がめざそう値に達していないが、一定の進捗率があるもの（80%≦進捗率<100%）
- ・ C…R3年度の実績値がめざそう値に達しておらず、基準値を超えているがB評価に及ばないもの（0%<進捗率<80%）
- ・ D…R3年度の実績値が基準値以下であるもの（進捗率≦0%）
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により評価不可…実績に新型コロナウイルス感染症の影響大きく受け、評価ができないもの
※基準値がないものについては、参考値もしくは初年度の実績値を評価基準とします。

「めざそう値」評価例について

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり			施策の柱		R3年度の実績値			最終目標値（めざそう値）		進捗率に基づく評価	進捗率の評価（A,B,C,D）	
No.	「めざそう値」指標	基準値（計画策定時） H28	参考 H29	H30	R1	R2	R3	（めざそう値） R3	所管課			
施策の柱2-1 子どもを生み育てやすい環境をつくる（子育て）												
1	この柱のみんなでのめざそう値	41.0%	33.0%	40.9%	45.5%	42.0%	44.2%	45.0%	A	子育て応援課		
	2-1 市民意識調査「保育環境の充実や子育てへの支援」における市民満足度	55.7%	53.2%	57.7%	68.3%	61.5%	65.7%	60.3%				
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 島田市版ネットワークの浸透、保育による気軽に相談できる体制の構築により生涯未婚率は上昇、出生数増加【今後の方向性】子育てカレンダー・しまいくしみを先行切れ目のない支援をすすめる取り組みをさらに構築していく</p> <p>市民意識調査の結果をめざそう値としているものは数値を2段階としている。上段は回答者全体のうち、肯定的な回答の割合、下段は「わからない」、「無回答」を除いた中での肯定的な回答の割合となっている。なお、進捗率に基づく評価は下段を用いている。</p> <p>じゃないでね講座を市内の薬局内で定期的に開催することを除いためざそう値を大きく達成することができた。全国幅が小さいことは致し方ないものと考ええる。</p> <p>妊娠期から学童期における育児不安や負担軽減になる取組司する企業等により、島田市全体で子育てかを温かく支援</p>										
2	結婚支援事業マッチング成立数（年間）	37組					組	16組	31組	D (評価不可)	子育て応援課	
	2-1-1 家庭を持ちたくなる環境づくりを推進します	37組					組	16組	31組			
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 市主催のイベントはH30年度で終了し、R2年1月に市内の結婚支援団体で結婚支援ネットワークを設立し、今年度は、新型コロナウイルス感染症の対策をしながら少人数にしたり、年齢・趣味など対象者に合わせた出会いの場を設けた。めざそう値の達成はできなかった。島田市は、情報共有・情報交換の場を設け、各団体の活動や【今後の取組】結婚支援ネットワークにおいて、各団体が実施するイベントへの協力や情報共有・情報交換等を行う中で、R4年1月に設立した静岡県によるふじのくに出会いサポートセンターと連携し、イベント等の情報の提供</p> <p>評価不可の項目については参考値を記載し、その下に（評価不可）と記載しています。</p>										

政策分野Ⅰ 安全ですやかに暮らせるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく評価	グラフ																					
	施策と内容	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3																							
施策の柱Ⅰ-Ⅰ ここに住むすべての人の安全な生活を守る(危機管理・防災・消防)																															
1	この柱のみんなでめざそう値 Ⅰ-Ⅰ 防災メール登録者数(H26年度からの累計)	3,900人	4,233人	5,000人	5,874人	7,147人	7,746人	6,500人	危機管理課	<table border="1"> <caption>防災メール登録者数実績</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>3,900</td><td>3,900</td></tr> <tr><td>H29</td><td>4,233</td><td>4,233</td></tr> <tr><td>H30</td><td>5,000</td><td>5,000</td></tr> <tr><td>R1</td><td>5,874</td><td>5,874</td></tr> <tr><td>R2</td><td>7,147</td><td>7,147</td></tr> <tr><td>R3</td><td>6,500</td><td>7,746</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	3,900	3,900	H29	4,233	4,233	H30	5,000	5,000	R1	5,874	5,874	R2	7,147	7,147	R3	6,500	7,746
	年度	実績	目標																												
H28	3,900	3,900																													
H29	4,233	4,233																													
H30	5,000	5,000																													
R1	5,874	5,874																													
R2	7,147	7,147																													
R3	6,500	7,746																													
【主な取組内容・成果・要因】 防災イベントや関係会議、研修会、出前講座等による周知、啓発の効果が得られ、めざそう値を達成することができた。また、令和2年度においてすでにめざそう値を達成しており、効果的な周知、啓発をすることができたと考え。		【今後の方向性】 今後も更に登録者数を確保するために、防災イベントや各課が主催する会議の中でPR活動、登録サポートのキャンペーン等を行う。																													
2	防災マイスター育成講座修了者数(H27年度からの累計)	77人	111人	143人	173人	203人	206人	230人	危機管理課	<table border="1"> <caption>防災マイスター育成講座修了者数実績</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>77</td><td>77</td></tr> <tr><td>H29</td><td>111</td><td>111</td></tr> <tr><td>H30</td><td>143</td><td>143</td></tr> <tr><td>R1</td><td>173</td><td>173</td></tr> <tr><td>R2</td><td>203</td><td>203</td></tr> <tr><td>R3</td><td>206</td><td>230</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	77	77	H29	111	111	H30	143	143	R1	173	173	R2	203	203	R3	206	230
	年度	実績	目標																												
H28	77	77																													
H29	111	111																													
H30	143	143																													
R1	173	173																													
R2	203	203																													
R3	206	230																													
Ⅰ-Ⅰ-Ⅰ 危機管理体制の実効性を向上させます		【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は、従来の「防災マイスター養成講座」から、防災マイスターの上級者編として、対象者を少人数とした「防災シニアマイスター養成講座」としたため、修了者の増加にはつながらず、めざそう値の達成はできなかった。ただし、毎年各所属から多くの受講実績があり、当事業の意義が浸透してきたことから事業目的は達成でき、危機管理体制の強化につながったと考えている。																													
3	地域の防災訓練参加率	50.29%	59.92%	54.01%	52.36%	24.74%	15.20%	52.0%	危機管理課	<table border="1"> <caption>地域の防災訓練参加率実績</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>50.29</td><td>50.29</td></tr> <tr><td>H29</td><td>59.92</td><td>59.92</td></tr> <tr><td>H30</td><td>54.01</td><td>54.01</td></tr> <tr><td>R1</td><td>52.36</td><td>52.36</td></tr> <tr><td>R2</td><td>24.74</td><td>24.74</td></tr> <tr><td>R3</td><td>15.20</td><td>52.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	50.29	50.29	H29	59.92	59.92	H30	54.01	54.01	R1	52.36	52.36	R2	24.74	24.74	R3	15.20	52.0
	年度	実績	目標																												
H28	50.29	50.29																													
H29	59.92	59.92																													
H30	54.01	54.01																													
R1	52.36	52.36																													
R2	24.74	24.74																													
R3	15.20	52.0																													
Ⅰ-Ⅰ-2 地域防災力の維持・向上の取り組みを加速します		【主な取組内容・成果・要因】 R2・3年度については、新型コロナウイルス感染症の影響によりめざそう値を大きく下回る結果となった。しかし、感染症対策を講じ家庭内で取り組む訓練等について提案を行うことで、継続した防災意識の向上に努めることができた。またR1年度以前は、自主防災会長・委員長会議での訓練趣旨の説明と訓練への参加を呼びかけや広報紙への記事の掲載、出前講座等の実施による市民意識の向上により、めざそう値を上回る実績となっている。																													
4	静岡県ふじのくにジュニア防災士認定者数(H28年度からの累計)	314人	1,173人	1,989人	2,728人	3,505人	4,629人	4,000人	危機管理課	<table border="1"> <caption>静岡県ふじのくにジュニア防災士認定者数実績</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>314</td><td>314</td></tr> <tr><td>H29</td><td>1,173</td><td>1,173</td></tr> <tr><td>H30</td><td>1,989</td><td>1,989</td></tr> <tr><td>R1</td><td>2,728</td><td>2,728</td></tr> <tr><td>R2</td><td>3,505</td><td>3,505</td></tr> <tr><td>R3</td><td>4,629</td><td>4,000</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	314	314	H29	1,173	1,173	H30	1,989	1,989	R1	2,728	2,728	R2	3,505	3,505	R3	4,629	4,000
	年度	実績	目標																												
H28	314	314																													
H29	1,173	1,173																													
H30	1,989	1,989																													
R1	2,728	2,728																													
R2	3,505	3,505																													
R3	4,629	4,000																													
Ⅰ-Ⅰ-2 地域防災力の維持・向上の取り組みを加速します		【主な取組内容・成果・要因】 毎年度継続して認定者数を増加させ、めざそう値を達成することができた。また、防災訓練や自主防災活動への積極的な活動を促すことにより、本事業を通じて地域防災力の担い手である小・中学生の防災意識の高揚を図るとともに、地域の災害対応力の向上に寄与できたと考える。																													

政策分野 1 安全ですこやかに暮らせるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)		実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課	
5	一般住宅の耐震化率	80.8 %	81.5 %	82.1 %	87.9 %	89.3 %	90.0 %	95.0 %	C	
	1-1-3 市民の安全確保を確実にする条件整備を進めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 S56年以前に建築された木造住宅の耐震補強計画策定や耐震補強工事に対して補助金を交付し、住宅の耐震化率を向上させるための取組を実施している。この制度を利用して、R3年度は、26戸の木造住宅の耐震性が向上した。H30、R1年度は計画通りに耐震化が進んだが、R2、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により耐震補強工事の申請が鈍化し、めざそう値の達成ができなかった。</p> <p>【今後の方向性】 引き続き、昭和56年以前に建築された木造住宅の耐震化率向上に取り組むとともに、既に耐震診断を受けている耐震補強工事を実施していない住宅に対して、耐震補強工事に誘導するような個別訪問、ダイレクトメール等の取組を実施する。また、耐震化事業が始まってから20年が経過したが、耐震性のない住宅所有者の大半が耐震化に意欲が無いことから、建替え・解体補助制度の活用についても促進しつつ、耐震化率の向上に努める。</p>							建築住宅課	
6	関係機関との合同訓練等の連携団体数 (年間延べ団体数)	20 団体	42 団体	28 団体	24 団体	14 団体	12 団体	25 団体	D (評価不可)	
	1-1-4 広域の消防救急体制を含め、関係機関等との連携体制を充実強化します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R2、3年度については、新型コロナウイルス感染症の影響で訓練方法や参加対象者を大きく変更したことから、参加団体の実績値としては特に低い値となっており、めざそう値を大きく下回る結果となった。しかし、そのような中でも、実践的な総合防災訓練、水防訓練、消防団訓練等が実施でき、関係機関及び関係団体との連携体制を確認することができた。</p> <p>【今後の方向性】 引き続き、関係機関及び関係団体との連携体制を充実させるとともに、必要に応じて新たな災害応援協定の締結を進めると共に、協定に基づく活動要領の検証を行い、有事の際における市民の命と暮らしを守る体制を整えていく。</p>							危機管理課	
施策の柱 1-2 健康で自分らしく暮らす (健康づくり・地域医療)										
7	この柱のみんなでめざそう値 1-2 市民意識調査「健康の増進 (健康診断や予防対策)」に おける市民満足度	58.0 %	50.7 %	64.3 %	69.8 %	66.9 %	70.8 %	60.0 %	A	
		68.6 %	65.2 %	77.5 %	82.9 %	78.4 %	84.0 %	69.7 %		健康づくり課
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度については、新型コロナワクチン接種体制の整備や動画による感染防止対策の普及啓発を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、健康講座や健康まつりはほとんど実施できなかったが、がん検診は予定した日程を全て実施し、受診機会を確保した結果、めざそう値を大幅に達成することができた。新型コロナウイルス感染症の影響により、R2年度以降は健康講座や健康まつりにおける健康づくりの普及啓発が実施できなかったが、講演会や体操、感染対策などの動画配信による普及啓発や、感染対策を講じた上での講座や健康相談を実施したこと、がん検診の受診機会の確保に努めたことが大きくめざそう値達成に寄与したと考える。</p> <p>【今後の方向性】 島田市健康増進計画、食育推進計画、自殺対策計画に基づき、随時施策を評価しながら、市民の満足度を維持できるような施策を展開していく。</p>								
8	国民健康保険事業特定保健指導実施率	88.5 %	81.1 %	82.8 %	90.3 %	88.6 %	%	88.5 %	A	
	1-2-1 健康の保持増進を促進します	<p>(実績値の確定が毎年翌年12月となるため、今回は令和2年度の実績について評価検証を行った。)</p> <p>【主な取組内容・成果・要因】 コロナ禍による外出控えの影響があり、実施率は若干減少したものの、維持目標値はクリアできている。基準値が高いことから維持する難易度は高く、前半は高いながらも基準値未達であった。後半はマイナス要因がありながらも基準値を超える実施率の維持ができた。</p> <p>【今後の方向性】 R3年度から保健指導の一部を外部事業者へ委託しており、実施率の維持に課題がある。十分な管理を行いながら、直営分についても推進し、実施率の維持を図りたい。</p>							国保年金課	

政策分野 1 安全ですこやかに暮らせるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)		実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
	施策と内容	主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課	
9	健康アンバサダー数（H30年度からの累計）	一人	一人	159人	305人	351人	412人	800人	C (評価不可)	健康づくり課
	1-2-1 健康の保持増進を促進します	【主な取組内容・成果・要因】 R3年度においては、11月と2月の計2回、健康アンバサダー養成講座を実施した。R2年度に引き続きR3年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため募集人数を制限しており、めざそう値の達成はできなかった。しかし、講座内容は受講者に好評であり、年度末に行われる保健委員の地区会等では、講座で得た知識を地域住民に周知している状況が確認できていることから、健康づくりに取り組むきっかけや健康意識の向上につながっていると考える。 【今後の方向性】 健康無関心層に対し、正しい健康情報を伝えることができる伝道師的な役割を担う健康アンバサダーの養成講座を継続実施し、認定者数の増加を図る。								
10	朝食を食べてくる子供の割合（5日間朝食を毎日食べた子供の割合）①小学校	92.9%	92.0%	96.1%	95.3%	95.6%	96.4%	95.0%	A	学校教育課
	1-2-2 食育を推進します	【主な取組内容・成果・要因】 各校での取組や栄養教諭による食育の授業等により、朝食を食べる児童の割合は高い水準を維持しており、めざそう値を達成することができた。新型コロナウイルス感染症が拡大する中でも、「食の指導」における栄養教諭を派遣した授業を実施し、食育の推進に取り組むことができた。 【今後の方向性】 コロナ禍において生活リズムが崩れた児童が見られ、毎朝同じ時間に朝食をとることが難しい状況も見られてきている。規則正しい生活を送ることができるよう児童や保護者への食育を継続していく。また、朝食はとっていても栄養バランスについては課題がある児童が多いため、食育の授業等を通じて栄養バランスの良い朝食をとることができるように図っていきたい。								
11	朝食を食べてくる子供の割合（5日間朝食を毎日食べた子供の割合）②中学校	90.7%	85.2%	95.5%	95.8%	94.1%	94.7%	93.0%	A	学校教育課
	1-2-2 食育を推進します	【主な取組内容・成果・要因】 各校での取組や栄養教諭による食育の授業等により、朝食を食べる生徒の割合は高い水準を維持しており、めざそう値を達成することができた。新型コロナウイルス感染症が拡大する中でも、「食の指導」における栄養教諭を派遣した授業を実施し、食育の推進に取り組むことができた。 【今後の方向性】 コロナ禍において生活リズムが崩れた生徒が見られ、毎朝同じ時間に朝食をとることが難しい状況も見られてきている。規則正しい生活を送ることができるよう生徒や保護者への食育を継続していく。また、朝食はとっていても栄養バランスについては課題がある生徒が多いため、食育の授業等を通じて栄養バランスの良い朝食をとることができるように図っていきたい。								
12	新市民病院建設事業進捗率（H28年度からの累計）	0.7%	2.5%	7.9%	17.9%	79.7%	88.4%	97.3%	B	病院建設課
	1-2-3 新市立島田市民病院の建設を推進します	【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は、9月に人工透析センター・別館の改修工事、3月に旧病院の解体工事が完了した。R4年3月末の工事進捗率は95.1%で予定どおり進んでいる。めざそう値である事業費見込額に対する累計執行額の割合については、工事出来形部分の90%の部分払いであるため、数値的には到達できていないが、長期に渡る新病院建設事業において、「ローコスト、高品質の病院建設を目指す」という事業理念のもと、計画どおりに事業が推進できたと評価する。 【今後の方向性】 R4年度は事業の最終年度である。新病院建設関連工事との連携を図りながら確実に外構工事を終え、円滑に使用開始できるよう取り組む。膨大な量の完成図書の見直しを受けるため、早い段階から関係書類、図面等を整理していく。								

政策分野1 安全ですこやかに暮らせるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)		実績値					目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3			
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課		
13	市民意識調査「医療の充実」における市民満足度	34.7 %	31.2 %	35.5 %	48.4 %	48.1 %	56.0 %	45.0 %	A	経営企画課	
	1-2-4 地域医療の充実と確保を図ります	40.8 %	37.9 %	40.1 %	55.9 %	55.8 %	64.1 %	50.0 %			
		【主な取組内容・成果・要因】 在宅医療の推進、医療と介護の連携強化などの継続した取組及び総合医療センターにおける要望事項への対応などの効果が表れ、めざそう値を大きく上回ることができた。また、計画期間内において継続して高い満足度を維持しており、R1年度以降継続してめざそう値を達成できている。 【今後の方向性】 これまでの取組を継続していくとともに、地域医療の中核を担う急性期病院として、救急、災害医療の充実など、公立病院として求められる機能の充実を図っていくとともに、新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組を進めていく。									
14	島田市立総合医療センターの医師数（年度末時点）	88人	82人	82人	87人	89人	101人	100人 (2023年度)	A	病院総務課	
	1-2-4 地域医療の充実と確保を図ります										
		【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は研修医の受入定員(8人)どおりに採用ができたこと、呼吸器内科や小児科などで常勤医師を確保できたこと等により、医師数は100人を超え、めざそう値を達成することができた。継続的な大学訪問により連携を強化してきたこと、医学生修学資金の貸与により当院に就職する研修医の確保を図ってきたことのほか、R3年5月2日の新病院開院に向け、働きやすい環境を目指して院内全体で準備をしてきたことなどが、医師の新規確保につながったと考えられる。 【今後の方向性】 引き続き、関連大学への訪問を重ねて連携を緊密にしていくとともに、研修医の募集定員枠をR5年度にかけて増員し、R6年度以降も定員枠を維持することで研修医の確保に努める。また、医学生修学資金貸与者の当院就職の状況については安定しているため、今後も新規貸与者の募集に向け予算確保に努め、事業を継続していく。さらに、医師の働き方改革を進め、時間外削減とともに、より一層働きやすい環境を整えていくことにより、医師から選ばれる病院として外部にアピールする必要があると考える。									
施策の柱1-3 生涯を通じて誰もが生きがいをもち安心して暮らす（高齢者・介護）											
15	この柱のみんなだめざそう値	33.1 %	28.5 %	38.2 %	43.0 %	42.1 %	45.0 %	34.1 %	A	長寿介護課 包括ケア推進課	
	1-3 市民意識調査「高齢者の医療・介護・福祉の充実」における市民満足度	41.1 %	39.0 %	49.3 %	58.0 %	58.0 %	63.5 %	42.0 %			
		【主な取組内容・成果・要因】 地域高齢者見守りネットワーク協力事業所数を大幅に増加させ地域の見守り体制を強化したこと、住民主体の生活支援サービスが発足したことにより高齢者がお互い支えあう地域づくりができたこと、しまだ看護つなぎ隊活動の継続実施、地域包括支援センター及び生活支援コーディネーターにより連携体制が図れたこと、R3年4月より小規模多機能型居宅介護と認知症高齢者グループホームをそれぞれ1施設ずつ開設したことなどにより、めざそう値を大きく達成することができた。また、H30からR3年度までの実績値においては、めざそう値を下回ったことは一度もなく、継続して効果的な施策が実施できたと考える。 【今後の方向性】 誰もが住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らすことができる医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体となった「地域包括ケアシステム」をさらに推し進め、高齢者だけでなく障害者、子どもなど全ての人が住み慣れた地域で、人との関わりを維持しながら暮らすことができる地域共生社会の実現を目指すとともに、介護サービスの充実と介護保険事業の適正な運営に努めていく。									
16	しまトレ実施箇所数（H29年度からの累計）	— 箇所	29 箇所	69 箇所	82 箇所	86 箇所	91 箇所	120 箇所	C (評価不可)	包括ケア推進課	
	1-3-1 自立した生活と健康寿命の延伸を図ります										
		【主な取組内容・成果・要因】 R3年度においては、地域包括支援センターと連携し地域への働きかけを行い5件の新規しまトレが開設したが、めざそう値の達成はできなかった。R1年度までは順調に箇所数を伸ばしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で開設を断念した団体や休止を継続したまま再開できていない団体が出てきたため、思うように団体数を増やすことができなかった。 【今後の方向性】 新たな団体開設だけでなく、現在活動をしている団体が継続していけるような新たな支援が必要、特に新規参加者や協力者を増やすための支援が必要と考える。R4年度には、新規のしまトレ実施者増加のため、きっかけ講座を開催予定の他、しまトレナー養成講座の範囲を広げ、しまトレナーをより多く養成することで、しまトレ団体内での効果の向上や普及啓発を行ってもらい、団体の継続を目指す。また、現在しまトレ開設の機運が高まっている地域、未実施地域への働きかけの継続・支援を行う。									

政策分野 1 安全ですこやかに暮らせるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	実績値					目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課	
17	住民主体の生活支援サービス（家事支援等）実施団体数（H28年度からの累計）	1 団体	2 団体	2 団体	3 団体	3 団体	3 団体	3 団体	A	
	1-3-2 多様な主体による生活支援体制を整備します	【主な取組内容・成果・要因】 生活支援体制整備事業を通して、協議体や普及啓発講演会等の機会により生活支援サービスに関する情報提供や必要性をアピールしてきたことにより、めざそう値を達成することができた。R2年度は生活支援サービスの立上げがなかったものの、R3年度にはサービス運営主体となり得る新たな地区社会福祉協議会（第一地区社協）の設立準備会が立ち上がり、R4年度中の地区社協設立や生活支援サービス開始に向けて地域や行政を含めた関係機関が丸となって準備に取組んでいる。 【今後の方向性】 地区社会福祉協議会が運営する「応援隊」という形以外の生活支援サービスの創出をし、地域に提示できる選択肢を増やしていく必要がある。具体的には、地区社協よりも小さな規模で実施される生活支援サービスである。また、既存の「応援隊」は高齢化が進み、担い手不足という課題に直面しているため、協議体や地域ケア会議を通して市全域の課題として解決策を模索していく。							包括ケア推進課	
18	地域高齢者見守りネットワーク協力事業所数（H23年度からの累計）	108 事業所	117 事業所	133 事業所	142 事業所	153 事業所	190 事業所	190 事業所	A	
	1-3-3 安心して暮らせる環境整備を推進します	【主な取組内容・成果・要因】 地域活性化に取り組んでいる事業所や高齢者と接する機会が多い業種を対象に集中的に依頼をすることで、新規協力事業所数を伸ばすことができ、めざそう値を達成することができた。また、高齢者と接する機会が多いコンビニエンスストアや薬局、高齢者福祉に関心の高い事業所に協力してもらうことにより、毎年数件の通報につながる等高齢者への適切な支援につなげられていると評価する。 【今後の方向性】 今後は協力事業所数を伸ばすとともに、地域で高齢者を見守るための啓発活動に力を入れ、引き続き、高齢者が安心して住み慣れた地域で暮らしていることが地域づくりに取り組んでいく。							長寿介護課	
19	要支援認定者等の認定区分改善率	— %	40.6 %	33.3 %	35.4 %	33.2 %	31.8 %	60.0 %	D	
	1-3-4 心身の状態変化に応じた包括的支援を推進します	【主な取組内容・成果・要因】 2年間の新型コロナウイルス感染症の影響で、通所事業の利用控えや、行動制限による運動量の低下から、心身機能低下が進み認定区分改善率は前年度に比べ減少しており、めざそう値を達成することはできなかった。なお、数値が横ばいになっている要因としては、目標設定年度の翌年に事業体制を見直しインフォーマルサービスの活用などにつなげたことから、介護認定が適切なものとなったことも影響していると考えられる。 【今後の方向性】 今後もケアプランチェック等による適切なアセスメント力の向上を図り、状態に応じた過不足のないサービスの利用と自立支援を推進する。また、要介護認定になる前の元気な時から、定期的な運動習慣やコミュニケーションの場への参加の継続や促進を図る必要がある。自立支援につながる地域支援については、各地域包括支援センターや居宅介護支援事業所とも意見交換を行いながら、地域の困り事や必要なサービス等の発掘を行っていくことも必要と考える。							包括ケア推進課	
20	認知症カフェ実施箇所数（H29年度からの累計）	— 箇所	2 箇所	8 箇所	8 箇所	8 箇所	7 箇所	5 箇所	A	
	1-3-4 心身の状態変化に応じた包括的支援を推進します	【主な取組内容・成果・要因】 R3年度はカフェ数が1か所減少しているものの、めざそう値は達成することができた。継続的に活動が出来るよう、地域包括支援センターを中心に認知症カフェ・居場所・しまトレの3箇所をオンラインでつなぎ情報交換会を開催する地区もあり、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら支援ができていたと考える。 【今後の方向性】 新型コロナウイルス感染のリスクがある中でも、感染予防の徹底・開催するメリットというものを検討し、休止を継続している団体に対して、定期開催が可能になるにはどうすればよいかを、地域包括支援センター担当者との連絡会等で議題として取り上げ検討し、支援を行っていく。							包括ケア推進課	

政策分野1 安全ですこやかに暮らせるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)		実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3																							
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課																						
21	在宅等看取りの率	H27 37.2%	H28 37.8%	H29 37.1%	H30 36.0%	R1 37.5%	R2 41.8%	40.0%	A	<table border="1"> <caption>在宅等看取りの率</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>37.2</td><td>37.2</td></tr> <tr><td>H29</td><td>37.8</td><td>37.8</td></tr> <tr><td>H30</td><td>37.1</td><td>37.1</td></tr> <tr><td>R1</td><td>36.0</td><td>37.5</td></tr> <tr><td>R2</td><td>37.5</td><td>37.5</td></tr> <tr><td>R3</td><td>41.8</td><td>40.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	37.2	37.2	H29	37.8	37.8	H30	37.1	37.1	R1	36.0	37.5	R2	37.5	37.5	R3	41.8	40.0
	年度	実績	目標																												
H28	37.2	37.2																													
H29	37.8	37.8																													
H30	37.1	37.1																													
R1	36.0	37.5																													
R2	37.5	37.5																													
R3	41.8	40.0																													
1-3-4 心身の状態変化に応じた包括的支援を推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 病院と訪問看護師等の在宅療養を支える関係者間で、退院時の患者情報共有の必要性を再認識するための合同研修会等を実施し、連携強化を図った。市内に在宅療養支援診療所が増設され、訪問看護ステーションの利用者が増えたことも在宅看取り件数の増加につながり、めざそう値を達成することができた。24時間対応可能な訪問看護体制への移行、医師不在時のバックアップ体制の構築及び拡充、医療材料提供体制整備など、目標に向けて地域医療を支える医師の負担軽減につながる支援策を構築してきたこれまでの取組や訪問看護ステーションの利用者が増えたことなどが成果の要因と考える。</p> <p>【今後の方向性】 高齢化が進行し医療と介護の両方が必要な方や認知症のある方が増大し、地域の診療所への期待が増大している一方で、医師不足は深刻な状況にある。医師の負担軽減につながる、在宅医療環境整備の取組の方向性を引き続き在宅医療・介護連携部会で検討していく。また、訪問看護から働きかける連携強化を意識し、病院看護部や介護支援専門員との合同研修会を継続的に実施していく。</p>							包括ケア推進課																							
22	要介護・要支援認定率	12.13%	12.75%	13.05%	13.40%	13.70%	14.03%	12.75%以下	D	<table border="1"> <caption>要介護・要支援認定率</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>12.13</td><td>12.13</td></tr> <tr><td>H29</td><td>12.75</td><td>12.75</td></tr> <tr><td>H30</td><td>13.05</td><td>13.05</td></tr> <tr><td>R1</td><td>13.4</td><td>13.7</td></tr> <tr><td>R2</td><td>13.7</td><td>13.7</td></tr> <tr><td>R3</td><td>14.03</td><td>12.75</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	12.13	12.13	H29	12.75	12.75	H30	13.05	13.05	R1	13.4	13.7	R2	13.7	13.7	R3	14.03	12.75
	年度	実績	目標																												
H28	12.13	12.13																													
H29	12.75	12.75																													
H30	13.05	13.05																													
R1	13.4	13.7																													
R2	13.7	13.7																													
R3	14.03	12.75																													
1-3-5 介護保険サービスの適切な提供を推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 認定調査及び主治医意見書に基づき、要介護状態・要支援状態に該当するかどうかを介護認定審査会において審査し、要介護・要支援認定の適正化に努めた。しかし、高齢化により要介護・要支援認定率は上昇し、めざそう値を達成することはできなかった。ただし、自立した高齢者を対象とした事業や生きがいづくりと社会参加の促進等で介護予防・重症化防止に努めたことにより、伸び率を抑えることはできた」と評価している。</p> <p>【今後の方向性】 今後も公正・的確・迅速に要介護・要支援認定を行い、要介護認定の適正化を図っていくとともに、要介護・要支援状態の軽減や重症化の防止に取り組んでいく。</p>							長寿介護課																							
施策の柱1-4 弱い立場の人を支えよう(地域福祉・障害福祉)																															
23	この柱のみんなでめざそう値	69.1%	65.6%	65.1%	71.1%	59.9%	59.8%	80.0%	C	<table border="1"> <caption>この柱のみんなでめざそう値</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>77.2</td><td>77.2</td></tr> <tr><td>H29</td><td>76.2</td><td>76.2</td></tr> <tr><td>H30</td><td>73.2</td><td>73.2</td></tr> <tr><td>R1</td><td>80.7</td><td>80.7</td></tr> <tr><td>R2</td><td>80.0</td><td>80.0</td></tr> <tr><td>R3</td><td>79.4</td><td>87.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	77.2	77.2	H29	76.2	76.2	H30	73.2	73.2	R1	80.7	80.7	R2	80.0	80.0	R3	79.4	87.0
	年度	実績	目標																												
H28	77.2	77.2																													
H29	76.2	76.2																													
H30	73.2	73.2																													
R1	80.7	80.7																													
R2	80.0	80.0																													
R3	79.4	87.0																													
1-4 市民意識調査「福祉環境がよい」と感じる市民の割合	<p>【主な取組内容・成果・要因】 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い「新しい生活様式」への転換が進み、地域活動の自粛や内容の見直しが行われ、地域での交流の機会も減少したことなどにより、R3年度は満足度が下降し、めざそう値を達成することができなかった。しかし、子ども・高齢・障害・困窮など福祉分野における各種福祉サービスの実施や、市社会福祉協議会との連携による小地域福祉活動組織(地区社会福祉協議会)の立ち上げ支援などの取組により、基準値と比較すると「わからない」「無回答」を除いた満足度が上昇している。</p> <p>【今後の方向性】 地域とのつながりの希薄化、人々の価値観やライフスタイルの変化などを背景に地域課題が多様化・複雑化している。島田市地域福祉計画・島田市地域福祉活動計画に基づき、福祉の制度や分野の枠を超えた包括的相談支援体制の在り方について、庁内関係部署や市社協を始めとする関係機関等と協議検討を進めていく。</p>							福祉課																							
24	地区社会福祉協議会の設置数(年度末時点)	11件	11件	11件	11件	11件	11件	20件	D	<table border="1"> <caption>地区社会福祉協議会の設置数</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>11</td><td>11</td></tr> <tr><td>H29</td><td>11</td><td>11</td></tr> <tr><td>H30</td><td>11</td><td>11</td></tr> <tr><td>R1</td><td>11</td><td>11</td></tr> <tr><td>R2</td><td>11</td><td>11</td></tr> <tr><td>R3</td><td>11</td><td>20</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	11	11	H29	11	11	H30	11	11	R1	11	11	R2	11	11	R3	11	20
	年度	実績	目標																												
H28	11	11																													
H29	11	11																													
H30	11	11																													
R1	11	11																													
R2	11	11																													
R3	11	20																													
1-4-1 地域福祉活動を積極的に推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 「生活支援をつなぐ会」を通じ地域福祉についての意見交換等を実施しており、R3年12月に第一地区において地区社会福祉協議会設立準備会が設置され新たな地区社協設立の動きが高まっているものの、めざそう値の達成はできなかった。小地域福祉活動に対する理解を得ることが難しい状況となっている。</p> <p>【今後の方向性】 社会福祉協議会や庁内関係課と連携し、今後も未設置地区への働きかけを進めていく。</p>							福祉課																							

政策分野1 安全ですこやかに暮らせるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)		実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課		
25	生活困窮者の自立相談支援件数(年間)	58件	55件	62件	56件	63件	62件	70件	D (評価不可)	
	1-4-2 自立した生活を送ることができるよう支援します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は、コロナ禍による貸付、給付金、支援金など支援プランを作成しないで行っためざそう値の上昇に寄与しない緊急的な支援が多く、めざそう値を達成することができなかった。しかし、4年間で家計改善や就労準備、子どもの学習・生活支援に関する生活困窮者支援事業を順次開始し、支援体制の強化を図ることができた。</p> <p>【今後の方向性】 生活困窮者は、複合的な課題を抱えていることが多く、自ら自立相談支援の窓口に来られない方もいる。引き続き事業周知を行うとともに、生活困窮状況を知る行政機関、地域の関係機関との情報共有や適切な連携のもとで、更に事業を推進していく。</p>						福祉課		
26	市民意識調査「障害者が生活しやすい環境づくり」における市民満足度	18.8 % 33.1 %	16.2 % 30.5 %	20.7 % 41.6 %	25.5 % 48.6 %	24.4 % 49.9 %	26.2 % 54.2 %	20.0 % 35.1 %	A	
	1-4-3 障害の相互理解と障害のある人の社会参加を促進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年4月に基幹相談支援センターを設置し、相談支援体制強化の取組を行った。また、引き続き障害のある人の特性や程度等に応じた障害福祉サービスの提供を行った。このような取組を進めた結果、障害者が生活しやすい環境づくりに対する市民満足度が上昇し、めざそう値を達成することができた。4年間継続してめざそう値以上の満足度を維持し、かつ上昇しており、障害者が生活しやすい環境づくりが進められたと考える。</p> <p>【今後の方向性】 障害のある人が自分らしく地域で生活を送ることができるように、個々の障害特性やニーズを的確に把握するとともに、本人を取り巻く周りの状況や家庭環境、生活環境等に配慮した上で、様々な社会資源や障害福祉サービスなどに適切につなぐなど、個々に寄り添った支援を継続していく。</p>						福祉課		
27	計画相談支援の利用者数(年間)	844人	869人	873人	909人	938人	961人	985人	B	
	1-4-4 障害福祉サービスの充実を図ります	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度に基幹相談支援センターが開設され、関係機関の連携による相談支援体制の構築により、福祉サービスの利用につながっているものの、新型コロナウイルス感染症の影響もありめざそう値の達成はできなかった。しかし、福祉分野と母子保健分野・学校教育分野、高齢分野との積極的な連携により、支援が必要な方への福祉サービスの提供はできていると考える。</p> <p>【今後の方向性】 障害福祉サービスを利用する全ての障害者に対してサービス等利用計画の作成が必須となっているため、福祉関係事業所の協力を得ながら、相談支援体制を充実させる必要がある。基幹相談支援センターが開設されたため、今後、関係機関の連携により重層的な相談支援体制の構築を推進していく必要がある。</p>						福祉課		
28	障害者雇用率	1.97 %	1.67 %	1.90 %	2.11 %	2.24 %	2.07 %	2.30 %	C	
	1-4-5 障害者雇用・就労を促進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 2021年3月より障害者の法定雇用率が引き上げられ、ハローワークをはじめとする関係機関と連携し、企業側(雇用側)に対する障害者雇用への理解を求めているところだが、R3年度は雇用率が低下しめざそう値を達成することができなかった。ハローワークをはじめとする関係機関と連携し、一般企業への就職を目指している障害者に対し就労支援を行ったが、障害特性が一人ひとり異なることから雇用率の上昇にはつながり辛かったことが要因と考える。</p> <p>【今後の方向性】 一般企業への就職を目指している障害者に対し就労支援を行い、障害者雇用を行う企業がなければ、就労につながらないため、ハローワークなどの雇用分野との連携により職域開拓、企業側(雇用側)に対する障害者雇用への理解を求め、障害者雇用の推進をしていく。</p>						福祉課		

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)		実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課	
施策の柱2-1 子どもを生み育てやすい環境をつくる(子育て)										
1	この柱のみんなでめざそう値	41.0 %	33.0 %	40.9 %	45.5 %	42.0 %	44.2 %	45.0 %	A	
	2-1 市民意識調査「保育環境の充実や子育てへの支援」における市民満足度	55.7 %	53.2 %	57.7 %	68.3 %	61.5 %	65.7 %	60.3 %		
【主な取組内容・成果・要因】 島田市版ネウボラの浸透、保育所待機児童の2年連続で0人の達成、育児サポーターの派遣やウエルカム島田・ひとりじゃないでね講座を市内の薬局内で定期的に開催することによる気軽に相談できる体制の確保といった取組が子育て世帯の満足度の向上につながり、「わからない」「無回答」を除いためざそう値を大きく達成することができた。全国的に生涯未婚率は上昇、出生数は減少していることから、「わからない」「無回答」が増加し、全体での満足度の上昇幅が小さいことは致し方ないものとする。 【今後の方向性】 子育てカレンダー・子育て応援サイトしまいく・ホームページ等による子育て情報の発信や、子育て支援プラットフォーム「しまいく+(ぶらす)」の充実を図り、引き続き妊娠から学童期における育児不安や負担軽減になる取組を行い切れ目のない支援をしていく。また、「ひとりじゃないでね」の発信・周知と、「ひとりじゃないでね」に賛同する企業等により、島田市全体で子育てを温かく支援する取組をさらに構築していく。										
2	結婚支援事業マッチング成立数(年間)	37組	29組	13組	35組	19組	16組	31組	D (評価不可)	
	2-1-1 家庭を持ちたくなる環境づくりを推進します	【主な取組内容・成果・要因】 市主催のイベントはH30年度で終了し、R2年1月に市内の結婚支援団体で結婚支援ネットワークを設立し、各団体の活動やイベント等の情報を共有し広報等を行っている。R3年度は、新型コロナウイルス感染症の対策のため、少人数にしたり、年齢・趣味など対象者に合わせた出会いの場を設定し、相談・支援等を行うことにより16組のカップルが成立したが、めざそう値の達成はできなかった。島田市は、情報共有・情報交換の場を設け、各団体の活動やボランティアスタッフ募集の広報等を行った。 【今後の取組】 結婚支援ネットワークにおいて、各団体が実施するイベントへの協力や情報共有・情報交換等を行う中で、出会いの機会づくりを支援し、活動等の周知・広報をしていく。また、R4年1月に設立した静岡県によるふじのくに出会いサポートセンターと連携し、イベント等の情報の提供・共有・広報、センターへの利用登録促進等を周知していく。								
3	ファミリー・サポート・センター会員数(年度末時点)	415人	437人	446人	435人	402人	410人	424人	D	
	2-1-2 子育てを温かく見守る環境をつくります	【主な取組内容・成果・要因】 子育て支援センターや幼稚園・保育園などへのチラシ配付、広報しまいく・ホームページへの掲載、FM島田での放送などにより、事業内容や依頼会員・提供会員について説明し会員の増加に努めたものの、R2年度に活動していない提供会員を整理したこともあり、めざそう値の達成はできなかった。しかし、R3年度には年間活動回数が増加したことから、効果的な支援ができていると考える。 【今後の方向性】 子育て支援センターや幼稚園・保育園などへのチラシ配付、広報しまいく・ホームページへの掲載、FM島田での放送などにより、事業についての周知を行うとともに、依頼会員、提供会員、双方のニーズに合った適正なマッチングに努めていく。その中で、必要な提供会員数の確保を目指す。								
4	子育て世代包括支援センターてくてくの相談件数(年間)	337件	368件	360件	905件	1544件	1006件	500件	A	
	2-1-3 安心できる母子保健体制等を整えます	【主な取組内容・成果・要因】 R2年度から比べると相談件数は減少しているが、めざそう値は達成することができた。R1年度から開始した島田市版ネウボラにより、常設窓口での保健師の相談対応以外に担当保健師が随時の相談対応をしたことや、新型コロナウイルス感染拡大等の生活状況の変化による相談が増えたため、めざそう値を大きく上回ったと考える。担当保健師の配置により相談しやすい体制が構築され、きめ細やかな対応につながっていると評価している。 【今後の方向性】 引き続き、担当保健師が相談窓口であることの周知を行っていくとともに、しまいく+等を活用し、対象者が担当保健師と相談しやすい関係を構築していく。また、担当保健師が相談窓口として機能を果たせるよう、保健師の資質向上にも努めていく。								

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
	施策と内容	主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課	
5	保育所等の年度当初における待機児童数	24人	20人	0人	15人	3人	0人	0人	A	
	2-1-4 子育てのしやすい環境を整えます	企業主導型保育事業所の開所があったものの、北部地区保育施設の定員減により、全体として定員数は1名の減となった。このため保育所等にできる限りの受け入れを要請し、入園申し込みでは2次選考を行い個別に対応するなど、きめ細やかな入園調整に努め、R3年4月の待機児童数は0人となりめざそう値を達成することができた。年度によっては待機児童が発生したが、各保育所と地域の申し込み状況を共有し、定員の調整や受け入れの拡充要請及びきめ細やかな入園調整を行うことで待機児童の解消に努めた。 【今後の方向性】 待機児童0人を維持していくために、引き続き保育所等と綿密な連携に努める。年度途中の待機児童への対応については、保育所等の受け入れを計画的に進めていくために、できるだけ早期に保育需要を把握すること、受け入れ施設の人的体制を充実させることが重要となる。このため、保育所入所申込に係る広報を工夫し充実させる。また、保育士人材バンクの活用、各種保育士就職支援セミナーの開催、保育補助者の雇用拡大や保育士向けの資金貸付制度などの利用促進に取り組み保育士確保に努めていく。						保育支援課		
施策の柱2-2 地域ぐるみの教育環境をつくる（学校支援・子供支援）										
6	この柱のみんなめざそう値	57.5%	54.0%	49.1%	50.3%	76.6%	56.5%	63.0%	D	
	2-2 島田に住み続けたい人の割合 (成人式アンケート)	【主な取組内容・成果・要因】 R2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により式典参加者を代表者のみに限定したこと、新成人へのアンケートをオンラインで行った結果、例年に比べ著しく回答率が下がったため、突出した結果となっている。数値が最も低かったH30から結果は上昇しているものの、めざそう値の達成はできなかった。 【今後の方向性】 「島田市に住み続ける（もどる）ために、島田をどんなまちにしたいですか。」の設問に対し、回答が多かった項目（人づくりや育児、教育環境が充実したまち、医療が充実したまち、地震対策等災害に強いまち等）について、関係課と情報共有を図っていく。島田市に住み続けたいかどうかについては、市政や他課も含めた事業によるところが大きいので、市全体で取り組む必要がある。						社会教育課		
7	学校支援地域本部事業等ボランティア活動延べ人数（年間）	118人	74人	245人	158人	47人	623人	370人	A	
	2-2-1 地域全体で学校教育を支援します	【主な取組内容・成果・要因】 新型コロナウイルス感染症の影響により、R2年度は非常に低い値となったが、R3年度までに市内の地域学校協働本部の設置を中学校区単位まで拡大することができ、めざそう値を達成することができた。 【今後の方向性】 R4年度からは、市内全小・中学校に地域学校協働本部を設置し、各校に1名以上の地域学校協働活動推進員（コーディネーター）を配置する。これにより、学校運営協議会と一層連携し、事業を推進していく。						社会教育課		
8	将来夢や目標を持っている子供の割合 ①小学校	85.3%	82.7%	83.4%	86.5%	87.0%	88.3%	88.0%	A	
	2-2-2 地域の人・資源を活かした学びの場をつくります	【主な取組内容・成果・要因】 教科・総合的な学習の時間等における地域の方との関わりや個々の興味・関心に応じた調べ学習の機会を継続的に設けたことで、目標になる大人の姿や将来の仕事へのイメージを膨らませている。また、目標を設定し定期的に振り返り、目標を達成する喜びや達成感を実感させたりしたことにより、めざそう値を達成することができた。 【今後の取組】 地域の方をゲストティーチャーとして招く授業、職業体験をはじめとした地域での学習、個々の興味・関心に応じた調べ学習等を継続的に取り入れて、子どもにとって目標となる大人と関わり将来について考える機会を作っていく。また、各学期・各学年等において子どもに目標をもたせ、目標を達成する喜びや達成感を実感する機会を作り、目標に向かって努力できるよう努めていく。						学校教育課		

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3																							
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課																							
9	将来夢や目標を持っている子供の割合 ②中学校	71.1 %	69.9 %	72.0 %	68.5 %	68.8 %	70.6 %	72.0 %	D	<table border="1"> <caption>将来夢や目標を持っている子供の割合</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>71.1</td><td>71.1</td></tr> <tr><td>H29</td><td>69.9</td><td>69.9</td></tr> <tr><td>H30</td><td>72.0</td><td>72.0</td></tr> <tr><td>R1</td><td>68.5</td><td>70.6</td></tr> <tr><td>R2</td><td>68.8</td><td>70.6</td></tr> <tr><td>R3</td><td>70.6</td><td>72.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	71.1	71.1	H29	69.9	69.9	H30	72.0	72.0	R1	68.5	70.6	R2	68.8	70.6	R3	70.6	72.0
	年度	実績	目標																												
H28	71.1	71.1																													
H29	69.9	69.9																													
H30	72.0	72.0																													
R1	68.5	70.6																													
R2	68.8	70.6																													
R3	70.6	72.0																													
2-2-2 地域の人・資源を活かした学びの場をつ くりまします	<p>【主な取組内容・成果・要因】 教科・総合的な学習の時間等における地域の方との関わりや個々の興味・関心に応じた調べ学習の機会を継続的に設けたことで、目標になる大人の姿や将来の仕事へのイメージを膨らませている。また、目標を設定し定期的に振り返り、目標を達成する喜びや達成感を実感させたり、可能な範囲で様々な職業を体験する機会を継続的に確保したことにより数値は上昇傾向にあるものの、めざそう値の達成はできなかった。</p> <p>【今後の取組】 地域の方をゲストティーチャーとして招く授業、職業体験をはじめとした地域での学習、個々の興味・関心に応じた調べ学習等を継続的に取り入れて、子どもにとって目標となる大人と関わったり将来について考える機会を作っていく。また、各学期・各学年等において子どもに目標をもたせ、目標を達成する喜びや達成感を実感する機会を作り、目標に向かって努力できるよう努めていく。</p>	学校教育課																													
10	市民意識調査「小・中学校教育の充実」 における市民満足度	47.2 % 66.3 %	42.2 % 66.5 %	42.0 % 65.5 %	41.4 % 70.6 %	33.0 % 56.3 %	38.7 % 70.2 %	60.0 % 76.7 %	C	<table border="1"> <caption>市民意識調査「小・中学校教育の充実」における市民満足度</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>66.3</td><td>66.3</td></tr> <tr><td>H29</td><td>66.5</td><td>66.5</td></tr> <tr><td>H30</td><td>65.5</td><td>65.5</td></tr> <tr><td>R1</td><td>70.6</td><td>70.6</td></tr> <tr><td>R2</td><td>56.3</td><td>70.2</td></tr> <tr><td>R3</td><td>70.2</td><td>76.7</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	66.3	66.3	H29	66.5	66.5	H30	65.5	65.5	R1	70.6	70.6	R2	56.3	70.2	R3	70.2	76.7
	年度	実績	目標																												
H28	66.3	66.3																													
H29	66.5	66.5																													
H30	65.5	65.5																													
R1	70.6	70.6																													
R2	56.3	70.2																													
R3	70.2	76.7																													
2-2-3 地域ぐるみで望ましい教育環境の実現を 目指します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 めざそう値を達成することはできなかったが、R1年度末からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響による異例の変動的な教育活動が、保護者や地域の方に負担や不安を与え、肯定的回答の割合が低くなった中、状況に応じて、子どもが輝く最善の教育活動を考え、工夫しながら実施することができたため、R3年度の満足度が大きく上昇し以前の数値まで回復している。</p> <p>【今後の方向性】 今後も新型コロナウイルス感染症の影響は続く想定されるが、コロナ禍においても子どもにとって楽しくわかりやすい授業づくり、楽しく安心して過ごせる学校づくりに地道に取り組んでいく。また、学校運営協議会を通して、学校の取組を地域の方に知っていただいたり、地域の方と連携して子どもを育てたりしていくように学校と地域が関わる機会を増やしていく。</p>	学校教育課																													
施策の柱2-3 豊かな心を育む教育を進める（義務教育）																															
11	この柱のみんなでめざそう値 2-3 学校が楽しいと感じる児童・ 生徒の割合 ①小学校	91.1 %	89.7 %	89.7 %	90.6 %	91.5 %	90.6 %	92.0 %	D	<table border="1"> <caption>学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>91.1</td><td>91.1</td></tr> <tr><td>H29</td><td>89.7</td><td>89.7</td></tr> <tr><td>H30</td><td>89.7</td><td>89.7</td></tr> <tr><td>R1</td><td>90.6</td><td>90.6</td></tr> <tr><td>R2</td><td>91.5</td><td>91.5</td></tr> <tr><td>R3</td><td>90.6</td><td>92.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	91.1	91.1	H29	89.7	89.7	H30	89.7	89.7	R1	90.6	90.6	R2	91.5	91.5	R3	90.6	92.0
	年度	実績	目標																												
H28	91.1	91.1																													
H29	89.7	89.7																													
H30	89.7	89.7																													
R1	90.6	90.6																													
R2	91.5	91.5																													
R3	90.6	92.0																													
【主な取組内容・成果・要因】 コロナ禍で全国的に不登校児童が増加傾向にあるものの、工夫して教育活動に取り組み、学びを実感できる授業づくりや個々の特性に応じた支援、よさを認め合う活動に取り組んだことにより高い水準を維持することはできたが、めざそう値の達成はできなかった。 <p>【今後の方向性】 今後も、学習指導要領で求められる資質・能力の育成を目指し、コロナ禍であっても可能な限り、各学校で子どもが主体的に学ぶ「自分らしさが輝く授業」づくりに取り組むとともに、個々の発達特性に応じた適切な支援、互いのよさを認め合い高め合う活動の設定等にも継続して取り組むことで、楽しいと思われる学校づくりに努めていく。</p> <td>学校教育課</td>	学校教育課																														
12	この柱のみんなでめざそう値 2-3 学校が楽しいと感じる児童・ 生徒の割合 ②中学校	86.0 %	88.8 %	89.1 %	86.8 %	89.4 %	89.4 %	88.0 %	A	<table border="1"> <caption>学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H28</td><td>86.0</td><td>86.0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>88.8</td><td>88.8</td></tr> <tr><td>H30</td><td>89.1</td><td>89.1</td></tr> <tr><td>R1</td><td>86.8</td><td>86.8</td></tr> <tr><td>R2</td><td>89.4</td><td>89.4</td></tr> <tr><td>R3</td><td>89.4</td><td>88.0</td></tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	86.0	86.0	H29	88.8	88.8	H30	89.1	89.1	R1	86.8	86.8	R2	89.4	89.4	R3	89.4	88.0
	年度	実績	目標																												
H28	86.0	86.0																													
H29	88.8	88.8																													
H30	89.1	89.1																													
R1	86.8	86.8																													
R2	89.4	89.4																													
R3	89.4	88.0																													
【主な取組内容・成果・要因】 コロナ禍で全国的に不登校生徒が増加傾向にあるものの、工夫して教育活動に取り組み、学びを実感できる授業づくりや個々の特性に応じた支援、よさを認め合う活動に取り組んだことにより、めざそう値を達成することができた。 <p>【今後の方向性】 今後も、学習指導要領で求められる資質・能力の育成を目指し、コロナ禍であっても可能な限り、各学校で子どもが主体的に学ぶ「自分らしさが輝く授業」づくりに取り組むとともに、個々の発達特性に応じた適切な支援、互いのよさを認め合い高め合う活動の設定等にも継続して取り組むことで、楽しいと思われる学校づくりに努めていく。</p> <td>学校教育課</td>	学校教育課																														

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	実績値						目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく評価	グラフ
		基準値 (計画策定時) H28	参考 H29	H30	R1	R2	R3	R3		
	施策と内容	主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課	
13	ALTによる外国語の授業が楽しいと感じる児童・生徒の割合①小学校	94.0 %	88.0 %	88.7 %	94.1 %	90.0 %	89.7 %	95.0 %	D (評価不可)	
	2-3-1 子供たちの成長を支える教育環境を構築します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ALTが予定通り配置できなかったり、新規のALTが指導に慣れるまでに時間を要し、教員と連携を深めることに課題が生じたりしたことで実績値が伸び悩み、めざそう値の達成ができなかった。ただし、数値は継続して高い水準で推移しているため、取組としては一定の評価ができるものと考えられる。</p> <p>【今後の方向性】 コロナ禍においても教育活動をできる限り継続させ、教員がALTと連携した授業づくりについて研修する機会やALT同士が研修する機会を設けることで、両者の力量を高め、楽しい授業づくりにつなげていく。</p>						学校教育課		
14	ALTによる外国語の授業が楽しいと感じる児童・生徒の割合②中学校	89.0 %	89.0 %	88.1 %	87.1 %	85.8 %	86.0 %	90.0 %	D (評価不可)	
	2-3-1 子供たちの成長を支える教育環境を構築します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ALTが予定通り配置できなかったり、新規のALTが指導に慣れるまでに時間を要し、教員と連携を深めることに課題が生じたりしたことで実績値が伸び悩み、めざそう値の達成ができなかった。ただし、数値は継続して高い水準で推移しているため、取組としては一定の評価ができるものと考えられる。</p> <p>【今後の方向性】 コロナ禍においても教育活動をできる限り継続させ、教員がALTと連携した授業づくりについて研修する機会やALT同士が研修する機会を設けることで、両者の力量を高め、楽しい授業づくりにつなげていく。</p>						学校教育課		
15	学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合(再掲)①小学校	91.1 %	89.7 %	89.7 %	90.6 %	91.5 %	90.6 %	92.0 %	D	
	2-3-2 学校施設を計画的に整備します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 島田第四小学校及び島田第一小学校の改築事業や、小学校の教室等への空調機器の設置・更新を行うとともに、老朽化した施設や設備の維持保全工事を実施した。各学校の学習環境を整備したことで高い水準を維持することはできたが、めざそう値の達成はできなかった。</p> <p>【今後の方向性】 今後とも、児童の学校生活がより安心・安全なものになるよう学校施設の計画的な整備を行い、楽しいと思われる学校づくりに努めていく。</p>						教育総務課		
16	学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合(再掲)②中学校	86.0 %	88.8 %	89.1 %	86.8 %	89.4 %	89.4 %	88.0 %	A	
	2-3-2 学校施設を計画的に整備します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 中学校の教室等への空調機器の設置・更新や、トイレ便器の洋式化を行うとともに、老朽化した施設や設備の維持保全工事を実施した。各学校の学習環境を整備したことで、めざそう値を達成することができた。</p> <p>【今後の方向性】 今後とも、生徒の学校生活がより安心・安全なものになるよう学校施設の計画的な整備を行い、楽しいと思われる学校づくりに努めていく。</p>						教育総務課		

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課		
17	不登校児童・生徒におけるチャレンジ教室登録者の割合	28.7 %	13.9 %	33.3 %	38.1 %	28.3 %	23.1 %	33.3 %	D (評価不可)	
	2-3-3 誰もが平等に教育を受けられる環境をつくります	<p>【主な取組内容・成果・要因】 新型コロナウイルス感染症の影響により学校以外の機関の利用を自粛する家庭が一定数いたことや、不登校児童・生徒の選択肢が増え、チャレンジ教室以外の民間団体、民間施設等に通う児童生徒が増えてきたことにより、めざそう値の達成ができなかった。しかし、学校が認知した不登校児童・生徒に対して、チャレンジ教室を含めた関係機関につなげる取組を行ったり、スクールソーシャルワーカーを活用し各校でケース会議を行い、チームで児童・生徒や家庭に対する支援に取り組むことで、手厚い支援ができたと考える。</p> <p>【今後の方向性】 まずは、授業、生活、学校行事、部活動等、すべての教育活動において、児童・生徒が学校に行きたいと思える環境づくりに努める。その上で、不登校児童・生徒におけるチャレンジ教室登録児童・生徒の割合の向上を目指し、多方面から積極的に児童・生徒及び家庭に働きかけるとともに、学校において児童・生徒が安心して生活できる居場所の確保及び環境の整備に努める。また、不登校児童・生徒の社会的自立を長期的な視点を大切にしつつ、諸関係機関につなげることも同時に進めていくために、スクールソーシャルワーカー関連事業の充実を図りたいと考える。</p>						学校教育課		
18	学校給食における島田市産農産物の使用割合（重量）	37.26 %	38.19 %	41.79 %	42.84 %	40.60 %	27.31 %	40.0 %	D	
	2-3-4 安全・安心な学校給食を提供します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度については米以外の農作物は地元農家の協力を得て例年通り積極的に使用することができたが、島田市産米の不作が大きく響き、使用割合が大きく減少しめざそう値の達成ができなかった。しかし、地元農産物を積極的に使用し、地産地消の推進を図ったことで、R2年度まではめざそう値を達成することができた。「顔が見える」生産者からの新鮮な野菜を使用することで、食材の安全性が担保され、児童・生徒へ安全安心な学校給食を提供することができた。</p> <p>【今後の方向性】 一度で大量に使用する学校給食への農産物の提供が可能な生産者の確保に努め、また、献立の検討等により、積極的な地元農産物の使用に努めていく。</p>						学校給食課		
施策の柱2-4 地域で学びの力を発揮する人材を育てる（社会教育）										
19	この柱のみんでめざそう値 2-4 生涯学習の成果を発表した人の数（年間）	1,955 人	1,924 人	1,937 人	0 人	111 人	132 人	2,030 人	D (評価不可)	
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 新型コロナウイルス感染症拡大状況を踏まえ、R3年度はR2年度と同様、ステージ発表を実施せず展示発表のみの開催であったが、参加団体が増加したこともあり実績値が若干増加したものの、めざそう値の達成はできなかった。新型コロナウイルスの影響で開催の中止や開催方法の変更が必要となり、計画とは大きく離れた実績となった。</p> <p>【今後の方向性】 学習の環境整備を引き続き行い、発表者が多く見込まれるステージ発表の再開について、新型コロナウイルスの感染状況やワクチンの接種状況を鑑みながら検討していく。</p>						社会教育課		
20	しまだ楽習センター「ふれあい楽習講座」受講満足度	76.3 %	96.8 %	97.5 %	96.7 %	96.2 %	89.5 %	81.3 %	A	
	2-4-1 生涯学習の充実を図ります	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度の実績値は例年と比較して減少しているものの、高い水準で推移しておりめざそう値も達成することができた。4年間ともめざそう値を大きく上回っているため、実施している講座に対してある程度満足してもらっていると考える。しかし、コロナ禍の影響もあってか、計画期間内においては減少が続いている。</p> <p>【今後の方向性】 講座の種類・内容を充実するとともに、わかりやすい講座内容の周知に努めていく。</p>						社会教育課		

政策分野2 子育て・教育環境が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課		
25	ニュースポーツ教室の延べ参加者数（年間）	1,215 人	1,010 人	1,178 人	1,034 人	368 人	508 人	1,350 人	D (評価不可)	
	2-5-1 生涯スポーツを普及します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 新型コロナウイルス感染拡大防止のためR2年度は43回、R3年度は30回の教室が中止となり、めざそう値を達成することができなかった。また、継続して教室に参加される方がいる一方、新規参加者の獲得が課題となっている。R1年度には初倉地区、R3年度には北部地区で新たにスポーツ教室を開催したとともに、子育て支援センターと連携し子育て中の母親を対象としたワンバウンドふらば～るバレーボール体験教室を行うなどニュースポーツのPRを行ったが、目標とした参加者数の増加までは至らなかった。</p> <p>【今後の方向性】 ニュースポーツ教室にバラスポーツの「ボッチャ」を取り入れ、年齢や性別、障害の有無に関わらず誰もがスポーツを楽しむことができる機会の提供に努める。また、新型コロナウイルス感染症の影響から減少した参加者数の回復を図るとともに、ニュースポーツ及びバラスポーツの魅力伝えていく。</p>						スポーツ振興課		
26	新たに設立される競技団体数（H30年度からの累計）	— 団体	— 団体	0 団体	0 団体	0 団体	0 団体	1 団体	D	
	2-5-2 競技スポーツの推進を図ります	<p>【主な取組内容・成果・要因】 ワンバウンドふらば～るバレーボールについては、愛好者によるチームが立ち上がり、大会等も行われているが、協会の設立等には至っていない。スポーツ教室等をきっかけに愛好者が増えチームとして活動する団体等もあるが、競技性よりも健康の保持増進やレクリエーションを目的として活動する方が多く、めざそう値の達成はできなかった。</p> <p>【今後の方向性】 競技団体の新規設立は競技スポーツの推進につながると考えるが、既に設立されている団体等も含め、競技力の向上を図り、全国大会等の上位大会への出場者数の増加を目指す。</p>						スポーツ振興課		
27	施設利用者数（社会体育施設）（年間）	1,143,600 人	1,219,631 人	1,244,040 人	1,001,166 人	801,399 人	852,708 人	1,339,600 人	D (評価不可)	
	2-5-3 スポーツ活動を行う環境を整備します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う施設利用時間の短縮等があったものの、安全にスポーツ活動を行うことのできるよう感染症対策を講じることによって、R3年度の利用者数は前年度実績を上回ることができた。R3年度から横井運動場公園・大井川緑地等及び田代の郷多目的スポーツ・レクリエーション広場に指定管理者制度を導入、また社会体育施設等の一部の予約について予約システムを導入し、更なる社会体育施設の利便性の向上を目指したが、新型コロナウイルス感染症の影響等によりめざそう値の達成には至らなかった。</p> <p>【今後の方向性】 島田市総合スポーツセンターや横井運動場公園等、各施設の改修工事・修繕工事等を計画的に実施し安全性及び利便性を高めることで、利用者数の増加につなげていく。また、島田市総合スポーツセンターについて、R5年度以降は新たに中央公園等の施設と合わせて一体的な管理運営に移行し、更なる利便性の向上と利用者数の増加を目指す。</p>						スポーツ振興課		

政策分野3 地域経済を力強くリードするまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
	施策と内容	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
施策の柱3-1 雇用の創出や新技術の導入により地域経済を発展させる(地域経済)										
1	この柱のみんなでめざそう値 3-1 企業立地件数(H23年度か らの累計)	12件	12件	14件	15件	15件	16件	22件	C	
	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度の企業立地件数は1件に留まり、めざそう値の達成はできなかった。要因としては、年度当初3件の企業立地件数を予定していたが、うち2件が新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、操業をR4年度に先送りしたことによるものである。また、計画期間全体として、企業用地の不足や新型コロナウイルス感染症拡大の影響により企業が設備投資計画などを延期したことにより、4年間で4件の企業立地件数に留まった。 【今後の方向性】 新東名島田金谷IC周辺地区における工業用地の開発や市民民間遊休地への企業進出などの動きがあるため、企業立地件数は増加する見込みである。</p>								内陸フロンティア推進課	
2	この柱のみんなでめざそう値 3-1 企業立地に伴う新規雇用者数 (H23年度からの累計)	265人	265人	283人	284人	284人	286人	485人	C	
	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度の新規雇用者数は、企業立地件数1件に伴う2人に留まり、めざそう値の達成はできなかった。要因としては、年度当初3件の企業立地に伴う新規雇用者数を見込んでいたが、うち2件が新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、操業をR4年度に先送りしたことによるものである。また、計画期間全体として4年間で21人の増加に留まったが、企業用地の不足に加え、全体的に自動化や省力化が進み多くの新規雇用者を必要としない傾向があったことが要因と考える。 【今後の方向性】 新東名島田金谷IC周辺地区における工業用地の開発や市民民間遊休地への企業進出などの動きがあるため、企業立地件数に加え、新規雇用者数も増加する見込みである。</p>								内陸フロンティア推進課	
3	産業支援センターの個別相談における満足度	77.6%	88.0%	87.7%	90.5%	86.9%	93.1%	82.6%	A	
	3-1-1 活躍する人を育て、応援します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度の個別相談では、事業者の課題やニーズに合った多彩な専門家による相談体制により、相談後のアンケート調査で93.1%から「非常に良かった」との回答を得ており、めざそう値を大きく上回ることができた。事業者からの相談は、経営課題のほか、販路拡大や新商品開発、人材確保など多岐にわたることから、多くの支援機関と積極的に連携することで、多彩な専門家による相談体制を構築している。また、計画期間すべてにおいてめざそう値を上回っており、継続して高水準の満足度を得ることができた。 【今後の方向性】 相談機関の真価は、利用者の満足度に表れることから、今後も利用者の満足度をさらに向上させるために、ニーズに即した体制の整備を進めていく。</p>								
4	観光振興活動支援件数(年間)	4件	4件	3件	4件	2件	2件	6件	D (評価不可)	
	3-1-2 経済活動の輪を広げていきます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度に補助した2件は、ともに前年度に補助した団体のイルミネーション事業であった。新たな団体からの問合せも数件あったが、新型コロナウイルス感染症の拡大により事業自体が中止になり、活用までは至らずめざそう値は達成できなかった。補助件数が減少した理由としては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、イベント活動等が制限されたことが考えられる。 【今後の方向性】 R4年度以降は本補助金制度を観光協会へ移管した。より多くの地域の団体等が主体的に取り組む集客イベント等の活動を支援することで、コロナ禍の地域の観光消費を拡大させていく。</p>								

政策分野3 地域経済を力強くリードするまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課	
5	ICTを活用した個別プロジェクト実施件数（H30年度からの累計） 3-1-3 ICTの活用で、産業の活性化を推進します	一件	一件	1件	3件	4件	4件	4件	A	
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 ICT推進プロジェクトに係わる国の交付金期間がR2年度に終了したことから、R3年度は新たな個別プロジェクトの実施はなかったが、めざそう値の達成ができた。計画期間内で4件のICTを活用した実証実験を実施し、結果報告会等を行い、市内事業者への横展開につながる取組を行った。</p> <p>【今後の方向性】 島田ICTコンソーシアムでの企業訪問活動において、必要に応じて取組の成果等を周知していくことで、市内企業のデジタル化を進めていきたい。</p>							戦略推進課	
施策の柱3-2 世界に誇れる技術を持った中小企業を育てる（工業）										
6	この柱のみんなでめざそう値 3-2 設備投資等支援による目標効果達成企業数（年間）	12件	12件	4件	7件	7件	7件	15件	D	
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 中小企業への支援は、国・県においても多彩な支援制度を創設しており、中小企業にとって選択肢が広がっていることから、R3年度の地域産業振興事業費補助金（機械設備整備事業）の申請件数は7件とめざそう値を大きく下回ることとなった。H30年度以降は、国の制度である「ものづくり補助金」等の申請及び採択件数が増えていることなどから、申請件数が減少していると考えられる。</p> <p>【今後の方向性】 人手不足や経営者の高齢化など、中小企業の課題は深刻であり、こうした課題解決の方法として、事業活動の合理化や近代化を支えることを目的とした補助制度は有効であると認識している。また、新型コロナウイルス感染症などの中小企業を取り巻く状況の変化や新たな課題に効果的に対応できるよう、中小企業の状況を注視していく必要がある。</p>							商工課	
7	販路拡大支援による成約件数（年間） 3-2-1 中小企業をサポートし、経営基盤を強化します	180件	76件	214件	695件	7件	0件	200件	D	
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 新型コロナウイルス感染症収束の目途が立たず、展示会や見本市の開催及び出展は見込めないことから、R2年度をもって販路開拓事業費補助金制度を終了したため、めざそう値の達成はできなかった。販路拡大は中小企業者にとって最も重要な課題であり、産業支援センターの個別相談においても多くの相談が寄せられており、新たな販路拡大を支援するために設けた当該補助金は、これまで多くの市内事業者を活用され、一定の効果を上げてきたと評価している。</p> <p>【今後の方向性】 R3年度からは、新たな事業展開、業態の転換、デジタルシフトの新たな事業展開等を支援するため、「島田市ビジネスニーズ参入支援事業補助金」を創設し、ウィズコロナ・ポストコロナ時代のビジネスニーズに対応していく。</p>							商工課	
8	内陸フロンティア推進区域 成長産業企業立地数（H30年度からの累計） 3-2-2 付加価値の高い地域産業を創出します	一件	一件	1件	1件	1件	2件	2件	A	
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 ふじのくにフロンティア推進区域内において、R3年度に立地した企業1件が県の成長分野に認定されたため、めざそう値を達成できた。</p> <p>【今後の方向性】 今後も成長分野の企業立地は、補助金の加算などを継続しながら誘致を推進する。</p>							内陸フロンティア推進課	

政策分野3 地域経済を力強くリードするまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3																							
	施策と内容	主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課																						
施策の柱3-3 商店街や個店を支援し、地域のにぎわいを生み出す（商業）																															
9	この柱のみんなでめざそう値 3-3 中心市街地（本通二丁目交差点）の歩行者数	2,008 人/日	1,511 人/日	2,135 人/日	1,511 人/日	1,883 人/日	2,009 人/日	2,200 人/日	C (評価不可)	<table border="1"> <caption>歩行者数実績と目標</caption> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> <tr><td>H28</td><td>2,008</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>1,511</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>2,135</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td>1,511</td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td>1,883</td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td>2,009</td><td>2,200</td></tr> </table>	年度	実績	目標	H28	2,008		H29	1,511		H30	2,135		R1	1,511		R2	1,883		R3	2,009	2,200
年度	実績	目標																													
H28	2,008																														
H29	1,511																														
H30	2,135																														
R1	1,511																														
R2	1,883																														
R3	2,009	2,200																													
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 事業者支援、消費喚起を目的としたLINEクーポン事業がまちなかへのにぎわいを生みだす波及効果があったほか、公共空間ににぎわい創出事業により民間資本を活用した店舗の設置を促すなど、まちなかへの誘客を図ったことで、中心市街地の歩行者数は増加傾向がみられたがめざそう値の達成までは至らなかった。ただし、R2年度以降については新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛等の影響下における数値であり、歩行者数の改善要素となる居住人口（社会動態増）や開業・新規雇用者数が改善していることから、新型コロナウイルス感染症拡大が沈静化すれば歩行者数の増加が期待できる。</p> <p>【今後の方向性】 R2年3月に策定した島田市中心市街地活性化基本計画をもとに、コンパクトシティの拠点となる中心市街地を形成するため、引き続き、にぎわい創出事業、経済対策施策などを実施する。</p>						商工課																							
10	空き店舗改善数（H30年度からの累計） 3-3-1 中心市街地のにぎわいづくりを進めます	一件	一件	0件	2件	5件	6件	8件	C	<table border="1"> <caption>空き店舗改善数実績と目標</caption> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> <tr><td>H28</td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td>5</td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td>6</td><td>8</td></tr> </table>	年度	実績	目標	H28	0		H29	0		H30	0		R1	2		R2	5		R3	6	8
年度	実績	目標																													
H28	0																														
H29	0																														
H30	0																														
R1	2																														
R2	5																														
R3	6	8																													
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は遊休不動産リノベーション応援補助金を活用し1店舗が改修されたが、累計としてめざそう値の達成はできなかった。総括として、新型コロナウイルス感染症拡大による社会的要因があったものの新規に事業を行う事業者が一定数おり、補助金を交付することで新規出店の後押しとなり、結果として空き家・空き店舗の解消及び中心市街地の人流創出に一定の効果があったと考える。</p> <p>【今後の方向性】 空き店舗の解消においては、空き店舗を有効活用する民間事業者が必要であるため、リノベーション推進事業と連携しながら、新規出店者の発掘や「遊休不動産リノベーション応援補助金」「創業補助金」などの利用促進を行い、今後も継続して支援していく必要がある。</p>						商工課																							
11	買い物弱者対策 買い物事業参加者数（H30年度からの累計） 3-3-2 地域に密着した商業サービスを展開します	一者	一者	1者	2者	2者	2者	1者	A	<table border="1"> <caption>買い物弱者対策参加者数実績と目標</caption> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> <tr><td>H28</td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>0</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>1</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td>2</td><td>1</td></tr> </table>	年度	実績	目標	H28	0		H29	0		H30	1		R1	2		R2	2		R3	2	1
年度	実績	目標																													
H28	0																														
H29	0																														
H30	1																														
R1	2																														
R2	2																														
R3	2	1																													
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は買い物支援事業者の新たな参加はなかったものの、4年間を通して2件の参加があった。買い物弱者対策については、現時点で民間がその役割を担う側面が大きい。</p> <p>【今後の方向性】 現在参加している事業者の動向を注視しつつ、他の手法も含めて買い物弱者対策についての全国的な取組を調査していく。</p>						商工課																							
12	商業のにぎわい創出支援件数（年間） 3-3-3 チャレンジする店主を支援します	17件	14件	9件	15件	30件	25件	20件	A	<table border="1"> <caption>商業のにぎわい創出支援件数実績と目標</caption> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> <tr><td>H28</td><td>17</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>14</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>9</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td>15</td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td>30</td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td>25</td><td>20</td></tr> </table>	年度	実績	目標	H28	17		H29	14		H30	9		R1	15		R2	30		R3	25	20
年度	実績	目標																													
H28	17																														
H29	14																														
H30	9																														
R1	15																														
R2	30																														
R3	25	20																													
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、定期的に行っていた「商業活性化支援事業」におけるイベントは当初に計画していたものが中止となることが多かったが、緊急経済対策としての「消費回復事業支援補助金」におけるイベントの開催によりめざそう値を達成することができ、にぎわいの創出につながったと考える。</p> <p>【今後の方向性】 今後も必要な感染対策等を講じて安全性を確保した上で開催できるイベントを継続して支援し、商店街や周辺地域のにぎわいを創出していく。</p>						商工課																							

政策分野3 地域経済を力強くリードするまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3																							
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課																						
施策の柱3-4 地域の特徴を活かした農林業を進める（農業・林業）																															
13	この柱のみんなでめざそう値 3-4 担い手への農用地の集積率	39.8 %	39.1 %	40.5 %	42.7 %	48.7 %	38.6 %	50.0 %	D	<table border="1"> <caption>担い手への農用地の集積率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>39.8</td> <td>39.8</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>39.1</td> <td>39.1</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>40.5</td> <td>40.5</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>42.7</td> <td>42.7</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>48.7</td> <td>48.7</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>38.6</td> <td>50.0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績 (%)	目標 (%)	H28	39.8	39.8	H29	39.1	39.1	H30	40.5	40.5	R1	42.7	42.7	R2	48.7	48.7	R3	38.6	50.0
	年度	実績 (%)	目標 (%)																												
H28	39.8	39.8																													
H29	39.1	39.1																													
H30	40.5	40.5																													
R1	42.7	42.7																													
R2	48.7	48.7																													
R3	38.6	50.0																													
<p>【主な取組内容・成果・要因】 農地中間管理事業を活用し、農地の集約は少しずつはあるが進んでいる。なお、令和4年度は集積面積の計算方法を変更したため集積率は減となり、めざそう値は達成できなかった。</p> <p>【今後の方向性】 令和3年度に市内を6地区に区割りし「実質化された人・農地プラン」を作成した。今後、地元での話し合いを進め、担い手への農地集積を図っていく。</p>									農業振興課																						
14	認定農業者数（年度末時点） 3-4-1 次の世代へつながる生産体制を築きます	391 人	384 人	384 人	385 人	387 人	371 人	400 人	D	<table border="1"> <caption>認定農業者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (人)</th> <th>目標 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>391</td> <td>391</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>384</td> <td>384</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>384</td> <td>384</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>385</td> <td>385</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>387</td> <td>387</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>371</td> <td>400</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績 (人)	目標 (人)	H28	391	391	H29	384	384	H30	384	384	R1	385	385	R2	387	387	R3	371	400
	年度	実績 (人)	目標 (人)																												
H28	391	391																													
H29	384	384																													
H30	384	384																													
R1	385	385																													
R2	387	387																													
R3	371	400																													
<p>【主な取組内容・成果・要因】 農業者の高齢化や後継者不足のほか、主要作物である茶の価格はH11年をピークに長期的な低迷状態にあり、生産資材の価格上昇も経営を圧迫していることから、離農者も増えてきているため、認定農業者の新規・再認定数が伸び悩み、めざそう値の達成はできなかった。</p> <p>【今後の方向性】 茶等の単作による生産体制のリスク管理として他の作物との複合経営を推進し、所得の安定を図るとともに、農業後継者の育成として新規就農者の支援を行う必要がある。</p>									農業振興課																						
15	茶改植実施面積（H23年度末からの累計） 3-4-2 農林業生産基盤の整備を推進します	35.62 ha	48.31 ha	51.62 ha	54.65 ha	57.53 ha	60.52 ha	70.0 ha	C	<table border="1"> <caption>茶改植実施面積</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (ha)</th> <th>目標 (ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>35.62</td> <td>35.62</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>48.31</td> <td>48.31</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>51.62</td> <td>51.62</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>54.65</td> <td>54.65</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>57.53</td> <td>57.53</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>60.52</td> <td>70.0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績 (ha)	目標 (ha)	H28	35.62	35.62	H29	48.31	48.31	H30	51.62	51.62	R1	54.65	54.65	R2	57.53	57.53	R3	60.52	70.0
	年度	実績 (ha)	目標 (ha)																												
H28	35.62	35.62																													
H29	48.31	48.31																													
H30	51.62	51.62																													
R1	54.65	54.65																													
R2	57.53	57.53																													
R3	60.52	70.0																													
<p>【主な取組内容・成果・要因】 毎年増加しているものの、増加率が思わしくなくめざそう値の達成はできなかった。また、年々増加率が減少傾向にある点も課題となっている。引き続き増加を保つべく、生産者に国及び市の支援制度について十分に周知させる必要と、国の支援を実施している大井川農業協同組合からの生産者への呼びかけを促す必要がある。なお、コストや将来性から改植実施を検討する生産者が減少傾向にある。</p> <p>【今後の方向性】 引き続き、国の改植支援に対する付け増し補助を実施する。また、改植を実施する見込みのある農業者へ、個別に国及び市の実施する改植支援制度について説明し、改植の実施を促していく。</p>									農業振興課																						
16	有機・無農薬栽培茶園面積（年度末時点） 3-4-3 農林資源の魅力为全国へと発信します	15.84 ha	19.5 ha	28.10 ha	30.13 ha	31.77 ha	34.39 ha	50.0 ha	C	<table border="1"> <caption>有機・無農薬栽培茶園面積</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (ha)</th> <th>目標 (ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>15.84</td> <td>15.84</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>19.50</td> <td>19.50</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>28.10</td> <td>28.10</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>30.13</td> <td>30.13</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>31.77</td> <td>31.77</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>34.39</td> <td>50.0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績 (ha)	目標 (ha)	H28	15.84	15.84	H29	19.50	19.50	H30	28.10	28.10	R1	30.13	30.13	R2	31.77	31.77	R3	34.39	50.0
	年度	実績 (ha)	目標 (ha)																												
H28	15.84	15.84																													
H29	19.50	19.50																													
H30	28.10	28.10																													
R1	30.13	30.13																													
R2	31.77	31.77																													
R3	34.39	50.0																													
<p>【主な取組内容・成果・要因】 国内外での有機・無農薬栽培茶の需要の高まりがあり、有機・無農薬栽培茶園面積は増えているものの、R2年度に引き続きR3年度も海外輸出には厳しい1年となり、微増にとどまりめざそう値の達成はできなかった。</p> <p>【今後の方向性】 農業の環境負荷低減を目指す「みどりの食料システム戦略」がR4年度から本格的に動き出した。同戦略が、有機農業の拡大に向けた取組などに支援が広がっていることから今後も農地の集約化などにより、有機・無農薬栽培茶園の増加に向け取り組んでいく。また、国内外の品質管理がより厳格になり、GAP（農業生産工程管理）認証の取組が求められるようになることから、研修会などを通して有機JAS規格に定められた基準へ統一するよう周知を図っていく。</p>									農業振興課																						

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ																						
		H28		H29	H30	R1	R2			R3																					
	施策と内容	主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課																							
施策の柱3-5 人と地域の魅力を伝える観光施策を進める（観光）																															
17	この柱のみんなだめざそう値 3-5 観光交流客数（年間）	2,372,870 人	2,024,028 人	1,896,746 人	1,966,063 人	1,510,933 人	1,930,058 人	3,000,000 人	D (評価不可)	<table border="1"> <caption>観光交流客数（年間）実績と目標</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>2,372,870</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>2,024,028</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>1,896,746</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>1,966,063</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>1,510,933</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>1,930,058</td> <td>3,000,000</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	2,372,870	-	H29	2,024,028	-	H30	1,896,746	-	R1	1,966,063	-	R2	1,510,933	-	R3	1,930,058	3,000,000
年度	実績	目標																													
H28	2,372,870	-																													
H29	2,024,028	-																													
H30	1,896,746	-																													
R1	1,966,063	-																													
R2	1,510,933	-																													
R3	1,930,058	3,000,000																													
	【主な取組内容・成果・要因】 大井川流域観光サイト「旅する大井川」のコンテンツを充実させるとともに国内に広告配信を行い島田の認知度を向上を図ったが、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けめざそう値を達成することはできなかった。しかし、R2年11月にオープンしたKADODE OIIGAWAが観光交流客数増加をけん引したこともあり、R3年度はR2年度を上回る結果となった。 【今後の方向性】 「認知度の向上」「観光消費の拡大」「受入環境の整備」の3つの視点を連動させ循環させていく。また、3つの視点を踏まえ「効果的・効率的な情報発信」「消費を促す魅力的な商品の開発、流通促進」「快適な旅のための環境整備」の3つの基本戦略を軸に、それぞれのKPI達成を目指す。具体的には旅する大井川、enjoy大井川の方向性を定めながら、サイト自体の認知度を上げることが必要と考える。また、サイト内のコンテンツの充実を図るとともに、R3年度に造成した観光商品の磨き上げを図り、観光客の誘客につなげていく。併せて、観光交流客数調査について市内観光施設向けに協力を依頼し、正確な数値の把握に努める。							観光課																							
18	市内観光地の認知度（市観光課ホームページのアクセス件数）（年間） 3-5-1 観光情報を効果的に発信し、観光による地域の活性化を目指す	183,188 件	225,844 件	185,803 件	523,618 件	680,115 件	619,372 件	200,000 件	A	<table border="1"> <caption>市内観光地の認知度（市観光課ホームページのアクセス件数）（年間）実績と目標</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>183,188</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>225,844</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>185,803</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>523,618</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>680,115</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>619,372</td> <td>200,000</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	183,188	-	H29	225,844	-	H30	185,803	-	R1	523,618	-	R2	680,115	-	R3	619,372	200,000
年度	実績	目標																													
H28	183,188	-																													
H29	225,844	-																													
H30	185,803	-																													
R1	523,618	-																													
R2	680,115	-																													
R3	619,372	200,000																													
	【主な取組内容・成果・要因】 R1年度以降めざそう値を大幅に上回る件数となっている。R3年度は前年度実績を下回る結果ではあるが、蓬萊橋のほか、伊太和里の湯の貸切風呂に関するアクセス数が大幅に増加した。アクセス数の推移傾向を見ると、コロナ禍による生活スタイルや、行動、意識の変化による影響が大きいものと推測される。H30年12月の公式ホームページの再構築を機に、コンテンツの充実や効果的な観光情報の発信に努めたことでアクセス数が増加し、ひいては認知度の向上につなげることができたものとする。 【今後の方向性】 島田市観光戦略プランに基づき、オンライン上での情報発信の拠点として構築した観光WEBサイト「旅する大井川」を軸にし、イベント情報等の迅速な情報発信を継続していく。あわせて（一社）島田市観光協会と連携し、TOURIST INFORMATIONおおいなびのSNSで「効果的・効率的な情報発信」を展開し、観光地としての認知の向上に努めるとともに、「大井川でやるべき100のこと」を媒体に地域事業者への送客を目指す。							観光課																							
19	蓬萊橋利用者数（年間） 3-5-2 地域資源を活用した観光振興を図るとともに受け入れ態勢を強化します	158,102 人	129,887 人	114,354 人	103,843 人	70,275 人	90,768 人	200,000 人	D (評価不可)	<table border="1"> <caption>蓬萊橋利用者数（年間）実績と目標</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>158,102</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>129,887</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>114,354</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>103,843</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>70,275</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>90,768</td> <td>200,000</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	158,102	-	H29	129,887	-	H30	114,354	-	R1	103,843	-	R2	70,275	-	R3	90,768	200,000
年度	実績	目標																													
H28	158,102	-																													
H29	129,887	-																													
H30	114,354	-																													
R1	103,843	-																													
R2	70,275	-																													
R3	90,768	200,000																													
	【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は島田市宝来地区かわまちづくり計画に基づき、利便性の向上や今後の集客効果の助長などにつながる蓬萊橋897.4広場の整備を行い、昨年度よりも利用者が増加したものの、めざそう値の達成はできなかった。渡橋者数の減少の主な理由は、新型コロナウイルス感染症の影響によるものと考えられる。国土交通省静岡河川事務所と島田市による一体的な整備を行い、憩いと賑わいのある水辺空間の創出に努めることができたものとする。 【今後の方向性】 大井川流域の新たな観光ルートの設定などにより、観光客の満足度を向上させ、更なる観光誘客につなげる中で、市内の観光消費額増加を図り、費用対効果を高めたい。蓬萊橋の両岸の整備は、引き続き「かわまちづくり計画」に基づく蓬萊橋周辺整備事業を進め、観光拠点の一つとして更なる誘客及び利便性の向上を図るため、国の支援や県補助金などを活用しながら、憩いと賑わいのある水辺空間の創出の場としていく。							観光課																							

政策分野4 住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課	
施策の柱4-1 地球環境の保全に貢献する(新エネルギー・再生可能エネルギー・低炭素社会・資源循環型社会)										
1	この柱のみんなでめざそう値	74.7 %	65.3 %	72.5 %	75.3 %	73.8 %	75.0 %	77.2 %	A	
	4-1 市民意識調査「地球環境対策や自然環境の保全」における重要度	84.0 %	88.6 %	92.9 %	92.4 %	92.5 %	94.4 %	85.6 %		
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 地球温暖化が一因とされる風水害等、大規模な自然災害が全国各地で発生していることに併せて、市としても2020年3月にゼロカーボンシティの表明し、2050年までにゼロカーボンを目指すため、出前講座等、環境教育の充実を図ったことにより、「わからない」「無回答」を除いた実績値はめざそう値を大きく上回った。しかし、「わからない」「無回答」を含めた全体の割合ではめざそう値を達成できなかったため、まずは環境問題に興味を持ってもらうことにも力を入れていく必要がある。 【今後の方向性】 今後も環境負荷の低減と地球環境対策に資する各種の事業、特に補助制度による再生可能エネルギーの利用促進や、主として小中学校の児童・生徒を対象とした環境教育・環境学習、また良好な自然環境を保全し公害の発生を未然に防止するため、環境監視・測定事業等の環境施策を推進していく。</p>								
2	太陽光補助金申請者の太陽電池設置容量(H14年度からの累計)	8.2 MW	9.0 MW	9.6 MW	9.7 MW	9.9 MW	10.2 MW	11.8 MW	C	
	4-1-1 新エネルギー・再生可能エネルギーを活用します									
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 2020年のカーボンニュートラル宣言の影響もあってか、R3年度についても増加傾向を維持したものの、めざそう値達成には至らなかった。R1年度の要綱改正により補助対象が住宅用太陽エネルギー利用設備から住宅用省エネルギー設備となり当該補助の範囲は狭まったものの、年度を経過するごとに達成率増加の幅も大きくなってきており、当該補助事業は市民に浸透してきていると考えられる。 【今後の方向性】 当該補助事業は今後も引き続き実施し、一般家庭での再生可能エネルギーの利用を推進していく。また、ゼロカーボンシティを実現するためには、現在の補助対象を今一度見直し、より二酸化炭素の排出を抑えかつ効率の良いものに対する補助を検討していく必要があると考える。</p>								
3	COOL CHOICE賛同者数(H29年度からの累計)	一人	848人	1,452人	2,125人	2,506人	3,199人	3,000人	A	
	4-1-2 低炭素社会・資源循環型社会を形成します									
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 市民の環境イベントや環境教育等への参加が定着してきていることが、めざそう値の達成につながったと考える。身近でできる地球温暖化対策として環境省が広報しているCOOL CHOICEだが、知名度は未だ高くないものの、説明すると気軽に賛同いただけるので市民の環境意識の形成に役立っている。今後も知名度向上と意識形成のため、脱炭素とともに啓発を続けていく。 【今後の方向性】 広く市民に向けて行ってきた啓発を今後も継続する。また、これまで環境学習は主に小学生を中心に行ってきたが、今後は中学生を対象に継続的な環境教育を行っていく。</p>								
4	市民意識調査「ごみ・リサイクル対策」における重要度	87.3 %	81.6 %	84.6 %	87.5 %	87.5 %	88.5 %	91.5 %	A	
	4-1-3 資源の有効活用を推進します	92.0 %	94.4 %	95.4 %	95.6 %	97.0 %	97.6 %	93.8 %		
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 地球環境悪化に起因する気候変動等の災害が頻発していることもあり、地球環境保全の手段の一つであるごみ・リサイクル対策に対する意識が高まっているとともに、市としては燃えるごみの大部分を占める生ごみの減量に効果的なキエーロの無料貸出を継続するなど、ごみ減量施策の普及啓発を図った結果、「わからない」「無回答」を除いた重要度はめざそう値を達成することができた。 【今後の方向性】 今後もごみ減量の重点施策として、生ごみの水切り、キエーロの普及、雑紙や古布類の分別徹底を継続して推進していく。これまでのような市からの一方的なPRではなく、市民が考えた取組を市民自ら行動・実行していくことが、ごみ減量の効果的なPRとなる。市民に対して、ごみ減量の必要性を説明した上で、市民自らが減量目標や具体的な取組を協議し、市の施策に反映させる仕組みを構築していく必要がある。</p>								

政策分野4 住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	実績値					目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3																							
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課																							
5	アース・キッズ事業参加者数（H23年度からの累計）	2,191人	2,639人	3,169人	3,692人	4,073人	4,561人	4,640人	B	<table border="1"> <caption>アース・キッズ事業参加者数</caption> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> <tr><td>H28</td><td>2,191</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>2,639</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>3,169</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td>3,692</td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td>4,073</td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td>4,561</td><td>4,640</td></tr> </table>	年度	実績	目標	H28	2,191		H29	2,639		H30	3,169		R1	3,692		R2	4,073		R3	4,561	4,640
年度	実績	目標																													
H28	2,191																														
H29	2,639																														
H30	3,169																														
R1	3,692																														
R2	4,073																														
R3	4,561	4,640																													
	4-1-4 環境教育・学習を推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R1年度からR2年度にかけて、新型コロナウイルス感染症の影響により実施を取りやめた学校もあったため参加児童数が伸び悩み、めざそう値達成には至らなかった。感染症の流行下でも取組方法の変更を含めて実施した学校が多かったことから、学校にとってこの事業が環境に対する教育の根幹として重要視されていると考える。</p> <p>【今後の方向性】 年少期から環境に対する意識づけができる重要な機会のため、今後も実施していく。また、中高生に向けた環境教育と合わせて昨今高まっている、環境に対する知識を高めていく。</p>						環境課																							
施策の柱4-2 みどり豊かな自然を守り育む（農地保全・森林環境・緑化活動）																															
6	この柱のみんなでめざそう値 4-2 森林整備面積（年間）	252.82 ha	226.38 ha	205.23 ha	229.61 ha	202.67 ha	191.85 ha	305.0 ha	D	<table border="1"> <caption>森林整備面積</caption> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> <tr><td>H28</td><td>252.82</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>226.38</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>205.23</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td>229.61</td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td>202.67</td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td>191.85</td><td>305.0</td></tr> </table>	年度	実績	目標	H28	252.82		H29	226.38		H30	205.23		R1	229.61		R2	202.67		R3	191.85	305.0
年度	実績	目標																													
H28	252.82																														
H29	226.38																														
H30	205.23																														
R1	229.61																														
R2	202.67																														
R3	191.85	305.0																													
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 R2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響や世界情勢等により、木材需要が不安定になったことや、林業経営体が主伐・再造林の実施により、間伐から主伐及び植栽へ人工を増やしたことから、めざそう値の達成ができなかった。特にR3年度は長雨により、作業日数が減少したことや、ウッドショックにより、林業経営体が間伐から主伐へ事業調整したことから、森林整備面積は減少となった。</p> <p>【今後の方向性】 国・県・市の様々な補助事業により林業経営体を支援し、森林整備面積の増加を図っていく。また、計画的な森林整備を促すために、林業経営体による森林経営計画の策定の支援を行っていく。</p>						森林整備課																							
7	伊太田地区とその近隣における猛禽類の生息・繁殖活動件数（毎年3月時点）	2件	4件	6件	4件	2件	3件	3件	A	<table border="1"> <caption>猛禽類の生息・繁殖活動件数</caption> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> <tr><td>H28</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>6</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td>3</td><td>3</td></tr> </table>	年度	実績	目標	H28	2		H29	4		H30	6		R1	4		R2	2		R3	3	3
年度	実績	目標																													
H28	2																														
H29	4																														
H30	6																														
R1	4																														
R2	2																														
R3	3	3																													
	4-2-1 森林環境の保全を図ります	<p>【主な取組内容・成果・要因】 事業者が開発をする際は、県ワシタカ類保全対策検討委員会とともに環境への影響を小さくする取組をお願いしてきた結果、R3年度はクマタカの繁殖が成功し、めざそう値を達成することができた。4年間の中では、R2年度に繁殖時期と長期の悪天候が重なったことで目標の達成ができなかったが、営巣、子育て、巣立ちといった繁殖活動がおおむね安定して確認でき、田代地区周辺では、大規模な工事があったにもかかわらず猛禽類の生息が可能な環境をある程度維持することができたと考えられる。</p> <p>【今後の方向性】 鳥田市による田代の郷整備事業の終了に伴い、20年以上継続してきた田代地区猛禽類調査はR3年度をもって終了したが、市民との協力のもと、田代の郷を自然観察や環境学習の場として活用し、その過程で可能な限り自然環境の保全状況を確認していけるよう検討していく。</p>						環境課																							
8	再生利用が可能な荒廃農地面積（年度末時点）	33.5 ha	36.1 ha	36.8 ha	47.9 ha	48.7 ha	39.2 ha	30.0 ha	D	<table border="1"> <caption>再生利用が可能な荒廃農地面積</caption> <tr><th>年度</th><th>実績</th><th>目標</th></tr> <tr><td>H28</td><td>33.5</td><td></td></tr> <tr><td>H29</td><td>36.1</td><td></td></tr> <tr><td>H30</td><td>36.8</td><td></td></tr> <tr><td>R1</td><td>47.9</td><td></td></tr> <tr><td>R2</td><td>48.7</td><td></td></tr> <tr><td>R3</td><td>39.2</td><td>30.0</td></tr> </table>	年度	実績	目標	H28	33.5		H29	36.1		H30	36.8		R1	47.9		R2	48.7		R3	39.2	30.0
年度	実績	目標																													
H28	33.5																														
H29	36.1																														
H30	36.8																														
R1	47.9																														
R2	48.7																														
R3	39.2	30.0																													
	4-2-2 農地や森林が持つ公益的機能の維持・回復を図ります	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は、耕作者の斡旋、管理指導により約11.5haの荒廃農地を活用につなげたが、後継者不足や高齢化により新たに約2haを認定することになってしまい、めざそう値の達成ができなかった。この4年間で、補助制度の活用等により荒廃農地の活用を推進してきたが、再生できた農地よりも、後継者不足や高齢化を要因として荒廃農地は増加していった。</p> <p>【今後の方向性】 農業者の後継者不足や高齢化による荒廃農地の増加が予想されるが、人・農地プランの実質化や基盤整備事業を進め、地域の担い手等へ農地を集積することで、荒廃農地の解消及び発生防止につなげていく。</p>						農業振興課																							

政策分野4 住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)		実績値					目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3			
	施策と内容	主な取組内容・成果・要因・今後の方向性								所管課	
9	生け垣づくり補助件数（S56年度からの累計）	1,131件	1,138件	1,148件	1,152件	1,155件	1,162件	1,186件	C		
	4-2-3 まちの緑化を推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は広報紙への掲載を2回から3回に増やし、1年間の補助件数について昨年度を上回ったものの、めざそう値の達成はできなかった。めざそう値を達成するためには1年間で平均約12件の補助をする必要があったが、その平均を1度も上回ることができず、広報の仕方や回数に不足があったと考える。</p> <p>【今後の方向性】 継続して広報紙へ掲載するとともに、宅地造成施行者から購入者へ補助金制度の説明をしてもらう等新たな周知方法を検討し、緑化のPRに努める。</p>							建設課		
施策の柱4-3 水資源と水環境を守る（水環境）											
10	この柱のみんなでめざそう値 4-3 一人1日最大給水量	リットル 477 / 人・日	リットル 470 / 人・日	リットル 482 / 人・日	リットル 466 / 人・日	リットル 482 / 人・日	リットル 468 / 人・日	リットル 464 / 人・日	C		
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度はめざそう値を下回る実績値となった。有収率が前年度よりも少し低下している（73.9%→73.8%）ことから、無収水量（漏水）が相当あるものと考えられる。ここ数年間有収率においては徐々に減少する傾向にあり、これは水道管の老朽化によるものであると考えられる。老朽管の更新については計画的に実施しているが、漏水の発生頻度も高まっており、布設替えの促進とともに、有効な漏水調査の実施も急ぐ必要がある。</p> <p>【今後の方向性】 老朽化した送水管、配水管については、計画的に布設替えを進めるとともに、老朽化あるいは耐震性のない配水池などの施設についても引き続き計画的に更新を図る。</p>							水道課		
11	大井川の水環境に対する市民の関心度	66.0%	65.2%	37.5%	57.1%	実績なし	21.1%	70.0%	D		
	4-3-1 リニア中央新幹線整備工事の対策に取り組みます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R2年度に藤枝市、焼津市、袋井市が大井川の清流を守る研究協議会の構成市町に追加となり、応募者の中から視察会への参加者は抽選で選定されるため、参加できる島田市民の割合は減少しめざそう値は達成できなかった。本協議会においては、「大井川の源流部を学ぶ視察会」、「大井川用水を学ぶ視察会」、「大井川を知る総合学習学校出前講座」を実施し、水資源、水環境を守る意識醸成に係る取組を行った。また、大井川フォーラムなどの事業実施も検討したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。</p> <p>【今後の方向性】 大井川の清流を守る研究協議会では、「大井川の源流部を学ぶ視察会」、「大井川用水を学ぶ視察会」、「大井川を知る総合学習学校出前講座」以外にも、今年度は下流における海岸清掃活動を予定し、水資源、水環境を守る意識醸成に係る取組を推進していく。また、リニア中央新幹線トンネル工事に伴う影響への対応は、県、大井川流域市町、利水者と連携して取り組み、水資源と水環境を保全する。</p>							戦略推進課		
12	汚水処理人口普及率	58.49%	61.65%	66.27%	68.06%	69.14%	69.69%	60.3%	A		
	4-3-2 水資源を保全します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度の実績値は69.69%となっており、めざそう値を大幅に達成することができた。これは、4年間を通じて、公共下水道の整備を進め供用開始区域を拡大し公共下水道へ接続可能な世帯数を増加させたこと、補助制度の啓発を広報紙やホームページ、チラシの配布などで行い合併浄化槽の設置を推進できたことが要因となっている。</p> <p>【今後の方向性】 今後も快適な生活環境の保持、循環型社会の形成、防災・減債の視点を取り入れたうえで、国、県と連携し生活排水対策を効率的かつ適正に推進していく。</p>							下水道課		

政策分野4 住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)		実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
	施策と内容	主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課	
13	市内河川調査における環境基準達成率	100%	100%	100%	100%	89%	80%	100%	D	
	4-3-3 水環境を守ります	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R2年度、R3年度については濁水状況が続き希釈がされず、ほとんどの河川で大腸菌群数が、一部河川でBODが超過したことが原因となり、めざそう値を達成することができなかった。通常の流量であれば基準値が達成できていたことが見込まれるが、天候により叶わなかった。</p> <p>【今後の方向性】 河川に異常があれば早急に原因を究明する体制を整える。</p>						環境課		
施策の柱4-4 住みよい生活環境をつくる（住宅・防犯・公共交通・交通安全・消費生活・男女共同参画・人権）										
14	この柱のみんでめざそう値 4-4 住みごこちがよいと感じる市民の割合	84.1%	85.1%	85.0%	85.5%	86.8%	88.8%	85.0%	A	
		85.2%	86.8%	86.4%	88.9%	89.4%	90.1%	85.9%	生活安心課	
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 安全で安心なまちの実現を目指した地域住民や関係団体等との連携による見守り活動や広報啓発活動の継続的な実施が、住みごこちがよいと感じる市民の割合の増加につながり、めざそう値を達成することができた。地域主体の見守り活動や、関係機関・団体との連携による会場・街頭での広報啓発活動、市民意識の向上のための各種講座の開催等の様々な活動による成果であると分析している。</p> <p>【今後の方向性】 安心して暮らせるまちづくりを目指して、市民や関係機関・団体等と引き続き連携・協働し、交通安全・防犯対策・人権施策や、地域の実情に沿った持続可能な公共交通施策を実施していく。</p>								
15	耐用年数が経過した住宅の解体すべき戸数（市営住宅）（年度末時点）	110戸	108戸	101戸	98戸	94戸	77戸	81戸	A	
	4-4-1 快適な居住環境の確保、安定した市営住宅の供給に努めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 大和田住宅の用途廃止に向け、入居者の移転協議が完了したことにより、R2年度に4戸、R3年度に残りの17戸と計画的に解体を行ったことで、めざそう値を達成することができた。大和田住宅については、R3年度をもってすべての建物の解体を完了している。島田市営住宅等長寿命化計画に基づき、老朽化が顕著な木造住宅について計画的に解体を進めることができていると評価している。</p> <p>【今後の方向性】 今後も島田市営住宅等長寿命化計画に基づき、目標達成に向け耐用年数が経過した市営住宅の解体を進めていく。</p>						建築住宅課		
16	犯罪発生件数（刑法犯認知件数）（年間）	441件	456件	347件	326件	295件	245件	400件	A	
	4-4-2 防犯活動を推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、明るく安心して暮らせるまちづくり市民大会の中止や、防犯まちづくり講座の実施回数は減少したが、会場や街頭での広報啓発活動の減少に対応するべく、警察署や防犯協会等関係団体と連携し、ホームページ等による情報提供に努めた。また、自治会等の地域防犯団体が実施する防犯パトロール等の活動に対して、地域見守り活動補助金による支援を行った。地域が主体となった活動が、市民の防犯意識の向上や犯罪の抑制につながっていると思われる。警察署や防犯協会等との広報啓発活動や、防犯パトロール・新入学児童への啓発品配付による子どもに対する安全対策の実施、また地域が主体となった防犯活動が継続して実施されてきたことにより、市民の防犯意識が着実に浸透し、めざそう値の達成ができたと考えられる。</p> <p>【今後の方向性】 犯罪発生件数は減少傾向にあるものの、依然として高齢者を狙う特殊詐欺被害や、子どもや女性に対する声かけ・つきまとい事案が多く発生していることから、引き続き、警察署や防犯協会、地域防犯団体と連携し、広報・啓発活動を積極的に取り組んでいく。また、自治会等による地域主体の防犯活動が継続するよう支援に努めていく。</p>						生活安心課		

政策分野4 住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3																							
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課																							
17	地域公共交通 利用者数(年間)	256,865人	240,036人	251,472人	250,214人	186,081人	162,037人	250,000人	D (評価不可)	<table border="1"> <caption>地域公共交通 利用者数(年間)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>256,865</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>240,036</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>251,472</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>250,214</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>186,081</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>162,037</td> <td>250,000</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	256,865	-	H29	240,036	-	H30	251,472	-	R1	250,214	-	R2	186,081	-	R3	162,037	250,000
	年度	実績	目標																												
H28	256,865	-																													
H29	240,036	-																													
H30	251,472	-																													
R1	250,214	-																													
R2	186,081	-																													
R3	162,037	250,000																													
4-4-3 公共交通の維持・確保に努めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 コミュニティバスの運行は新型コロナウイルスの影響を大きく受けており、まん延等防止措置期間中はもちろん、それ以外の期間においても移動需要は以前の様には戻っておらず、めざそう値を達成することができなかった。また、運行経費の上昇を抑えるため、R3年4月から土日祝日ダイヤの導入及び利用が少ない時間帯を中心に一部減便を実施したことも複合し、利用者は前年度比約13%の減となった。R1年度までは目標を達成していたが、コロナ禍による学校休校や外出自粛及び生活様式の変化、さらに、運行経費低減に対応するため、R2年度に実施した年末年始期間の運休やR3年度に実施した土日祝日ダイヤの導入及び平日の一部運休による影響も複合してバス利用者は減少した。</p> <p>【今後の方向性】 運転士不足や原油価格の高騰、円安による燃料費の上昇など運行経費が下がる要因がなく、さらなるコスト上昇に備える必要がある。また、持続可能な公共交通網の構築を目指し、R5年度中に「島田市地域公共交通計画」を策定・運用を開始するとともに、地域公共交通計画に基づき、全市的な運行形態の見直しを行う。さらに、MaaSなどの新たな技術を活用した次世代交通システム導入の調査・検討を行っていく。</p>	生活安心課																													
18	地域公共交通 人口カバー率	64.5%	64.5%	64.4%	65.1%	65.0%	65.0%	90.0%	C	<table border="1"> <caption>地域公共交通 人口カバー率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>64.5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>64.5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>64.4</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>65.1</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>65.0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>65.0</td> <td>90.0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	64.5	-	H29	64.5	-	H30	64.4	-	R1	65.1	-	R2	65.0	-	R3	65.0	90.0
	年度	実績	目標																												
H28	64.5	-																													
H29	64.5	-																													
H30	64.4	-																													
R1	65.1	-																													
R2	65.0	-																													
R3	65.0	90.0																													
4-4-3 公共交通の維持・確保に努めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 路線の新規設定及び廃止は行わなかったが、エリアカバーができていない地域に居住する移動困難者人口の減少によりR3年度は若干減少した。鍋島地区での地元主体運行開始により基準値からは増加したが、大幅な変動ではなく、めざそう値の達成はできなかった。</p> <p>【今後の方向性】 R4年4月から、金谷地区の大代線と夢づくり会館線を統合し、新たな大代線として運行しているが、利用者に影響がないよう配慮している。運行経費の高騰は今後も続く予想されることから、現在の路線規模は維持しつつ、持続可能な公共交通網を構築するため、運行形態の見直し作業を続けていく。JR駅から離れた公共交通空白地区に対し、住民主体による交通手段確保の取組の後押しを行い、鍋島地区と同様な取組を広げていく。</p>	生活安心課																													
19	地域公共交通 エリアカバー率	69.9%	69.9%	70.4%	70.4%	70.4%	63.8%	80.0%	D	<table border="1"> <caption>地域公共交通 エリアカバー率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>69.9</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>69.9</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>70.4</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>70.4</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>70.4</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>63.8</td> <td>80.0</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	69.9	-	H29	69.9	-	H30	70.4	-	R1	70.4	-	R2	70.4	-	R3	63.8	80.0
	年度	実績	目標																												
H28	69.9	-																													
H29	69.9	-																													
H30	70.4	-																													
R1	70.4	-																													
R2	70.4	-																													
R3	63.8	80.0																													
4-4-3 公共交通の維持・確保に努めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 エリアカバー率は平日の運行本数の変化により数値が増減する。H30年度に運行本数の調整をして以降平日の運行本数を確保してきたが、運行経費の高騰に対応するためR3年4月1日から実施した平日の一部減便の影響を受け、前年度から6.6ポイントの減少となり、めざそう値の達成はできなかった。</p> <p>【今後の方向性】 運行経費の高騰は今後も継続すると思われることから、持続可能な公共交通網の構築を目指し、R5年度中に島田市地域公共交通計画を策定するとともに、地域公共交通計画に基づき、全市的な運行形態の見直しを行う。また、MaaSなどの新たな技術を活用した次世代交通システム導入の調査・検討を行い、将来的な導入を目指す。</p>	生活安心課																													
20	交通事故(人身事故)発生件数(年間)	718件	672件	646件	539件	478件	431件	700件	A	<table border="1"> <caption>交通事故(人身事故)発生件数(年間)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>718</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>672</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>646</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>539</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>478</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>431</td> <td>700</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	718	-	H29	672	-	H30	646	-	R1	539	-	R2	478	-	R3	431	700
	年度	実績	目標																												
H28	718	-																													
H29	672	-																													
H30	646	-																													
R1	539	-																													
R2	478	-																													
R3	431	700																													
4-4-4 交通安全対策を推進し、安全な地域づくりを進めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 警察等関係機関と連携した広報啓発活動や、地元自治会等と連携した交通安全設備の設置や維持管理などにより交通事故(人身事故)発生件数が減少し、めざそう値を達成することができた。R2年度、R3年度については交通死亡事故ゼロ連続300日を達成し、静岡県交通安全対策協議会長表彰を受賞している。関係機関と地元、市が一体となった取組が、交通事故(人身事故)の抑制につながったと考える。</p> <p>【今後の方向性】 第11次島田市交通安全計画に基づき、交通安全対策の推進を図る。交通安全運動を推進し、市民一人ひとりの交通安全意識を高めるとともに、交通安全施設等の設置・維持管理により、生活道路における危険個所の解消に努め、交通事故のない安全な地域づくりを進めていく。また、高齢者等の運転免許証自主返納のサポートを引き続き行っていく。</p>	生活安心課																													

政策分野4 住みよい生活環境があり、自然とともに生きるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3																							
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課																							
21	電話勧誘に起因する消費生活相談件数 (年間)	133件	103件	50件	66件	46件	40件	100件	A	<table border="1"> <caption>電話勧誘に起因する消費生活相談件数 (年間)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>133</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>103</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>50</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>66</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>46</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>40</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	133	-	H29	103	-	H30	50	-	R1	66	-	R2	46	-	R3	40	100
	年度	実績	目標																												
H28	133	-																													
H29	103	-																													
H30	50	-																													
R1	66	-																													
R2	46	-																													
R3	40	100																													
4-4-5 消費生活対策を推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 H28年度から迷惑電話防止装置設置事業を実施し、R1年度からは迷惑電話防止装置の購入者に対する補助金制度に変更し利用の継続率を高めた。また、迷惑電話防止装置設置事業と併せ、迷惑電話による消費者トラブルに対する注意喚起を継続的に行ったことで電話勧誘に起因する消費生活相談件数は減少し、めざそう値を大幅に達成することができた。また、固定電話をやめる家庭の増加や、留守番電話設定・ナンバーディスプレイ表示を利用する等個々の対策がとられるようになったことも要因であったと考える。 【今後の方向性】 R3年3月に策定した「島田市消費者教育推進計画」に基づき、自ら学び、自ら考え行動する消費者の育成を目指し、消費生活の安定と向上に努めていく。また、消費者の年齢階層ごとの特性に配慮した未然防止策を講じ、特に電話勧誘によるトラブルに遭いやすい高齢者を対象としたふれあいしほ塾出前講座の実施や高齢者あんしんセンター等との連携強化を図っていく。</p>	生活安心課																													
22	女性の社会進出を後押しする動きが広がることについての市民意識	81.2 % 88.5 %	81.6 % 94.4 %	82.2 % 90.8 %	83.7 % 92.3 %	79.6 % 89.3 %	79.0 % 91.8 %	85.0 % 90.7 %	A	<table border="1"> <caption>女性の社会進出を後押しする動きが広がることについての市民意識</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>88.5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>94.4</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>90.8</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>92.3</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>89.3</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>91.8</td> <td>90.7</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	88.5	-	H29	94.4	-	H30	90.8	-	R1	92.3	-	R2	89.3	-	R3	91.8	90.7
	年度	実績	目標																												
H28	88.5	-																													
H29	94.4	-																													
H30	90.8	-																													
R1	92.3	-																													
R2	89.3	-																													
R3	91.8	90.7																													
4-4-6 男女共同参画社会の実現を目指します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 「わからない」「無回答」を除いた割合はめざそう値を達成しており、これは女性活躍やジェンダー平等への社会的な機運の高まりや、市としての啓発活動によるものと考えられる。一方、全体の回答における割合では、めざそう値を下回り、かつ減少していることから、無関心な層が増加していることが読み取れる。講座やセミナー、情報紙による市民への啓発によって、4年間で女性活躍や男女共同参画に関する意識は一定の割合高まってきていると考えられるが、目新しいことではなく「当たり前」として認識され、無関心な層が増えてきていると考える。 【今後の方向性】 社会的にも男女共同参画や女性活躍が認知されてきているが、「自分には関係ない」と認識してしまっている人が多くいることが考えられる。そのため、無関心層に向けて、問題を自分事化するための啓発に力をいれていく必要がある。「第3次島田市男女共同参画行動計画」を基に、今までの男女共同参画の意識啓発に引き続き取り組んでいく。また、それと同時に、さまざまな場面での無意識の思い込みを認識していくことなどについても市民に啓発を行っていく。</p>	市民協働課																													
23	人権啓発事業への参加者数 (年間)	461人	491人	480人	202人	0人	28人	500人	D (評価不可)	<table border="1"> <caption>人権啓発事業への参加者数 (年間)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>461</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>491</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>480</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>202</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>28</td> <td>500</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績	目標	H28	461	-	H29	491	-	H30	480	-	R1	202	-	R2	0	-	R3	28	500
	年度	実績	目標																												
H28	461	-																													
H29	491	-																													
H30	480	-																													
R1	202	-																													
R2	0	-																													
R3	28	500																													
4-4-7 人権が尊重される社会の実現を目指します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は障害者施設において寸劇やクイズ等を取り入れた人権出前講座を開催し、28人の参加があったものの、めざそう値の達成はできなかった。H29年度、H30年度は、島田市民権擁護委員が定期的に保育園、小中学校、障害者施設において人権教室を開催し、めざそう値に近づく参加者数となっていたが、新型コロナウイルス感染症拡大以降、受入れ先との協議の結果人権教室の開催を見送ったため、大きく実績値を下げている。ただし、毎年人権啓発ポスターコンクールを開催するといった活動を通じ、人権問題について市民への周知を図ることができた。 【今後の方向性】 引き続き、小中学校・幼稚園・保育園のほか、福祉施設や高齢者施設においても人権啓発事業を実施していく。感染防止に配慮した安心して参加できる講座の実施を心掛け、人権啓発事業の重要性について理解を深めてもらうよう努めていく。</p>	生活安心課																													

政策分野5 歴史・文化がかがやく、人が集まるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	実績値					目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	参考 H29	H30	R1	R2	R3	R3		
	施策と内容	主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課	
施策の柱5-1 培われた歴史・文化で地域への理解と愛着を深める（歴史・文化）										
1	この柱のみんなだめざそう値	31.8 %	27.0 %	27.3 %	31.9 %	39.3 %	25.4 %	41.8 %	D (評価不可)	
	5-1 市民意識調査「歴史・文化資源が豊かである」と感じる市民の割合	34.3 %	29.3 %	29.1 %	34.0 %	43.0 %	27.9 %	42.2 %		
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 R2年度までは順調に数値が上昇していたが、R3年度に大きく下降しめざそう値を達成することができなかった。川越遺跡、諏訪原城や蓬萊橋を活用したことにより「歴史を生かしたまちづくり」の満足度が大きく上昇したことを踏まえると、他にも数多く島田市にある歴史・文化資源を知ってもらえる機会が不足していたことが要因と考える。また、新型コロナウイルス感染症の影響により「市民文化祭出展者、出演者、観客数計」が大きく減少したことも、そういった機会の喪失を加速させたと思われる。</p> <p>【今後の方向性】 「島田市文化芸術推進計画」に掲げる「まもる」「はぐくむ」「つくりだす」「つなげる」の四つの視点に基づいた施策を推進することにより、市民の更なる地域理解と愛着を深め、街の魅力を高めるとともに、ヒト・コト・モノの架け橋となる交流都市をつくっていく。</p>								
2	市民意識調査「歴史を生かしたまちづくり」における市民満足度	39.7 %	36.4 %	35.6 %	41.1 %	40.8 %	37.8 %	41.7 %	A	
	5-1-1 歴史資源を守り、活用を進めます	56.0 %	57.5 %	60.1 %	64.3 %	60.9 %	66.0 %	57.2 %		
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 川越遺跡では「和菓子バル」などのイベントを開催し、諏訪原城跡では、島田市観光協会と連携をしてクラウドファンディング事業を実施したり、春風亭匠太氏を隊長とした「諏訪原城応援隊」のイベントを開催するなど、文化財を保存管理するだけでなく活用する事業を実施したことが満足度の上昇につながり、めざそう値を大きく達成することができた。また、蓬萊橋周辺の整備が進んだことも、満足度の上昇に寄与していると考えられる。ただし、「わからない」「無回答」の割合に好転が見られないため、歴史資源に関心がない人に興味を持ってもらえるような活用方法も検討していく必要がある。</p> <p>【今後の方向性】 大井川川越遺跡、諏訪原城跡の歴史資源を後世に継承していくとともに、伝統的・文化的な価値を損なわず、風情・景観に適する事業を実施し、にぎわいを創出し観光資源としての魅力を高めていく。また、国・県・市が指定する文化財の保存活動や活用を支援していく。</p>								
3	島田市博物館入場者数（分館含む）（年間）	57,395 人	41,745 人	42,292 人	34,728 人	21,939 人	27,174 人	50,000 人	D (評価不可)	
	5-1-2 歴史に触れる機会を創出します									
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 H30年度は前年度と比べて増加となっていたが、R1年度以降新型コロナウイルス感染症の影響により全国的な観光事業の停滞等があり、入館者は低調に推移している。そういった状況の中、魅力ある企画展の開催等によりR3年度は前年比5,235人の増とすることができたが、めざそう値の達成はできなかった。</p> <p>【今後の方向性】 魅力ある企画展を実施するとともに、ターゲット層に届くような広報を展開していく。今後予定している、博物館の川越街道賑わい創出事業を前提としたリニューアル事業の中で、固定された常設展の展示だけでなく、いつ来ても学びがあり、楽しめる博物館を目指していく。令和4年3月27日より、富士山静岡空港からのアクセスバスのルートに博物館が組み込まれたことを踏まえ、蓬萊橋やKADODE OOIGAWAなどと市内を周遊できるような枠組みを設計し、観覧者数の増加を目指していく。</p>								
4	市民文化祭出展者、出演者、観客数計（年間）	9,100 人	8,787 人	9,048 人	8,282 人	4,779 人	5,118 人	10,000 人	D (評価不可)	
	5-1-3 文化・芸術に親しむ機会を充実します									
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 R2年度以降新型コロナウイルス感染症拡大の影響により市民の文化活動が制限され、出演団体数及び出品数が減少し、めざそう値を達成することができなかった。展示部門については、R2年度から新たに展示期間中にロビーコンサートを開催し、R3年度の人数はわずかながら上昇させることができた。</p> <p>【今後の方向性】 新型コロナウイルスの感染拡大防止に十分留意しつつ、事業内容を発展的に再考していく必要がある。ロビーコンサートのように、訪れた人が自ら参加し文化活動に携われるようなコンテンツ作りも検討していく。また、例年参加者・来場者ともに固定化されつつあることから、より幅広い層へ文化祭への参加を促していくことが必要となる。とくに現在参加が少ない若年層については公式LINEの活用等、効果的な周知方法を検討していく。</p>								

政策分野5 歴史・文化がかがやく、人が集まるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課	
5	市民意識調査「文化活動への支援」における市民満足度	32.1 %	25.6 %	28.3 %	30.8 %	28.2 %	27.7 %	42.1 %	A	
	5-1-4 文化活動を支援し、文化芸術水準の向上を目指します	53.8 %	51.9 %	60.5 %	59.9 %	55.0 %	62.4 %	62.3 %		
<p style="text-align: center;">施策の柱5-2 島田を知り、好きになってもらう（情報発信・シティプロモーション）</p>										
6	この柱のみんなでめざそう値	545 位	660 位	405 位	451 位	576 位	620 位	400 位	D	
	5-2 都市の魅力度（地域ブランド調査）	<p>【主な取組内容・成果・要因】 新型コロナウイルス感染症の影響により、主だったプロモーションの活動が制限されたことで、市外・県外に対する発信活動が十分にできず、めざそう値の達成ができなかった。島田市の魅力を伝えるためのコンテンツ作成は、高いレベルのものを完成させていると考えているが、そのコンテンツの効果的な発信が十分でなかったことが要因と考える。 【今後の方向性】 これまで開発してきた、コンテンツを効果的に発信することにより、市内外における島田市の魅力を高めていく。情報発信においては、明確なターゲットを定め、適切な発信方法で展開していく。また、他課と連携することで、市外・県外への発信活動を強化していくことも効果的であると考えているため、庁内におけるシティプロモーションの意識醸成を図っていく。</p>								
7	島田市公式SNS（Facebook、Twitter等）のフォロワー数（毎年5月時点）	5,176 件	6,174 件	7,114 件	7,760 件	11,139 件	12,165 件	5,700 件	A	
	5-2-1 効果的に情報を発信し、島田に行ってみたくなるイメージを高めていきます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 公式ホームページと連携した各SNSにおけるタイムリーな情報発信などでフォロワー数を増加させ、めざそう値を大幅に達成することができた。また、定期的なSNSの投稿により、ユーザーの興味が途切れないよう努めた。さらに、庁内における情報発信の意識向上から、ウェブサイトの精度の向上が見られたことも、めざそう値以上のフォロワー数獲得の要因の一つと考える。 【今後の方向性】 SNSの特性や利用ユーザーに合わせた情報発信を行うことで、フォロワー数を低下させないよう推移させていくことが必要になる。引き続き、情報元となるホームページの作成については、ユーザー目線に立った記事制作を各課に依頼していく。</p>								
8	島田市公式ホームページの総ページビュー数（年間）	2,884,538 件	2,980,567 件	3,133,292 件	3,852,796 件	6,645,947 件	7,112,593 件	3,000,000 件	A (評価不可)	
	5-2-1 効果的に情報を発信し、島田に行ってみたくなるイメージを高めていきます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の発令などの情報源が市ホームページだったことが主な要因となり、R2年度以降アクセス数が大きく上昇し、めざそう値を大幅に達成することができた。また、登録者が増加傾向にある島田市LINE公式アカウントのメッセージ配信から市ホームページへ誘導するため、各担当のより良いページ作成・意識の向上がアクセス数増加の要因となったと考える。 【今後の方向性】 LINEの運用が常態化していくことで、情報のマンネリ化が懸念される。また、LINEでの情報発信のみを行い、情報元となるホームページの記事制作が疎かにならないよう、各所属に対し、効果的なページ制作の必要性を伝えていく。</p>								

政策分野5 歴史・文化がかがやく、人が集まるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考 H29	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ	
		H28		H30	R1	R2	R3			R3
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課		
9	島田市の認知度（地域ブランド調査）	578 位	621 位	562 位	582 位	634 位	611 位	400 位	D	
	5-2-2 島田市緑茶化計画をはじめとしたシティプロモーションの推進により、島田のブランド力を高めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 新型コロナウイルス感染症の影響により、主だったプロモーション活動が制限されたことで、市外・県外に対する発信活動が十分にできず、めざそう値の達成ができなかった。島田市の魅力を伝えるためのコンテンツ作成は、高いレベルのものを完成させることができていると考えているが、そのコンテンツの効果的な発信が十分でなかったことが要因と考える。</p> <p>【今後の方向性】 これまで開発してきた、コンテンツを効果的に発信することにより、市内外における島田市の魅力を高めていく。情報発信においては、明確なターゲットを定め、適切な発信方法で展開していく。また、他課と連携することで、市外・県外への発信活動を強化していくことも効果的であると考え、庁内におけるシティプロモーションの意識醸成を図っていく。</p>						広報課		
施策の柱5-3 人との連携・交流が生まれる地域をつくる（移住・国際交流・多世代交流）										
10	この柱のみinnでめざそう値 5-3 県外からの移住件数 (H27年度からの累計)	34 件	50 件	64 件	79 件	95 件	115 件	140 件	C	
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度においては、空き家バンクや結婚新生活支援金等の支援制度のほか、相談対応や現地案内等を丁寧に実施した結果20件の移住につながる事ができたが、めざそう値の達成はできなかった。しかし、丁寧な相談対応や情報発信に取り組んだことで、少しずつではあるが、年間の移住件数は着実に増加している。</p> <p>【今後の方向性】 移住候補地としての島田市の認知度はまだまだ低く、効果的な情報発信に努める必要がある。R2からR3にかけてリニューアルを行った移定・定住ポータルサイト「住んでご島田」の更新・分析を続け、移住検討者のニーズに沿った情報発信を行うとともに、広告配信など、web上での移住検討層に対するアプローチに取り組む。</p>						市民協働課		
11	移住相談件数（年間）	104 件	112 件	84 件	113 件	87 件	132 件	156 件	C	
	5-3-1 移住支援を促進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度においては、移住・定住ポータルサイト「住んでご島田」のリニューアルを実施し、広告配信などweb上での情報発信に取り組んだことから、相談件数が大幅に増加し、過去最高の相談件数となった。しかし、電話やメールによる相談件数は着実に増加を続けていた一方、R2年度以降はコロナ禍の影響で首都圏等でのイベントによる相談件数が大幅に減少し、全体の移住件数が伸び悩んだため、めざそう値の達成には至らなかった。</p> <p>【今後の方向性】 今後は対面とオンラインの併用による相談対応・イベント開催が予想される。web上での情報発信を強化して、移住候補地としての島田市の認知度を高め、移住相談件数の増加につなげていく。</p>						市民協働課		
12	市民意識調査「国際交流や都市間交流の推進」における市民満足度	27.2 % 49.3 %	26.9 % 63.1 %	25.6 % 63.5 %	24.5 % 65.5 %	19.8 % 53.5 %	19.9 % 62.5 %	30.0 % 52.4 %	A	
	5-3-2 国内・国際交流を推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 コロナ禍の中で、姉妹都市交流や語学講座をリモートにて実施するとともに、学校へ国際交流に係る出前授業を行い、国際感覚を身に付けた人材の育成につなげた。併せて、「外国人のためのほんご教室」等の開催など、新たに多文化共生の視点を取り入れた事業を実施したことで、「わからない」「無回答」を除いためざそう値は達成することができた。しかし、「わからない」「無回答」と回答した割合を含めるとめざそう値を達成できておらず、周知が不足していたと考える。</p> <p>【今後の方向性】 国内交流については、アフターコロナやウィズコロナに向けて、氷見市と提携等をしている団体と連携しながら、相互訪問をしていく方向である。R3年度から島田市国際交流協会の事務局体制が独立したが、組織として運営体制が不安定な状況であるため、自立できるよう引き続き支援していく。</p>						文化資源活用課		

政策分野5 歴史・文化がかがやく、人が集まるまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3																							
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課																						
13	先進的自治会活性化事業新規実施自治会数 (H29年度からの累計)	— 自治会	1 自治会	3 自治会	3 自治会	5 自治会	5 自治会	5 自治会	A	<table border="1"> <caption>実績と目標の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (実績)</th> <th>目標 (目標)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績 (実績)	目標 (目標)	H28	0	0	H29	1	1	H30	3	3	R1	3	3	R2	5	5	R3	5	5
	年度	実績 (実績)	目標 (目標)																												
H28	0	0																													
H29	1	1																													
H30	3	3																													
R1	3	3																													
R2	5	5																													
R3	5	5																													
5-3-3 幅広い世代が交流し、このまちへの愛着が湧く意識を醸成します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度においては、1自治会が前年に引き続き自治会のホームページを開設する情報発信事業を実施した。R2年度から実施している自治会情報通信機器整備補助金により、公会堂等への情報通信機器の整備が進み、自治会の情報発信事業への取組が増えたことが主な要因となり、めざそう値を達成することができた。また、各自治会が公会堂に情報機器を整備したことにより、自治会役員の負担軽減に向けた取組や、事務の効率化への取組が進んでいる。</p> <p>【今後の方向性】 自治会の活動や地域の情報発信を行うことで、自治会活動の周知や活動の促進を図りたい。また重点設定事業にICTを活用した自治会運営や自治会役員の負担軽減に向けた取組、自治会の効率的な情報伝達や事務の効率化のため、引き続き取組を促す必要がある。</p>	市民協働課																													

政策分野6 ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課		
施策の柱6-1 安全で快適な生活基盤を整える(生活道路・河川・公園・上下水道等・通信)										
1	この柱のみんなでめざそう値	36.1 %	38.7 %	36.4 %	40.7 %	36.1 %	37.0 %	40.0 %	A	
	6-1 市民意識調査「安心して暮らせる居住環境の整備」における市民満足度	47.9 %	52.3 %	50.1 %	54.2 %	47.5 %	52.0 %	51.7 %		
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 計画的な市道、橋りょう、配水池の整備、老朽化が進んだ水道管の更新などにより安全安心な交通の確保及び飲料水が提供され、「わからない」「無回答」を除いためざそう値を達成することができた。逆に、全体での割合についてはめざそう値を達成できなかったが、この項目における「わからない」については肯定的な意味合いで受け取れるものが多いと考えるため、安心して暮らせる居住環境の整備は計画通り進捗したと評価する。</p> <p>【今後の方向性】 「安心のまち」は第2次島田市総合計画における将来像の一部であるため、さらに力を入れて居住環境の整備を推進していく。また、整備の内容については、地域住民の声等をよく聞きながら、市民のニーズに合ったものを検討していく。</p>								
2	市道の整備率	38.4 %	38.7 %	38.8 %	38.8 %	39.2 %	40.9 %	40.1 %	A	
	6-1-1 生活道路の整備を計画的に進めます									
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度については、中村宮下線や東海パルブ北、大井町静居寺橋線などの道路や歩道の改良事業を行った。めざそう値を達成できた主な要因は、整備ではなく市道認定の見直し(廃止等)によって分母の総延長が減ったことが大きい要因はあるものの、限られた予算の中、地元要望箇所を優先順位に応じて整備することができた。</p> <p>【今後の方向性】 事業費の確保が厳しい状況ではあるものの、地元要望の優先順位を明確に定め、計画的・効率的な整備を図っていく。</p>								
3	長寿命化修繕計画における橋りょうの工事実施率	32.0 %	39.0 %	41.0 %	61.0 %	63.0 %	82.0 %	84.0 %	B	
	6-1-2 橋りょう・河川の整備により、市民の安全を守ります									
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 市内1132橋のうち132の点検(H26年度～H30年度)で85橋を修繕対象とした。このうちR2年度までに54橋の修繕を完了し、R3年度は15橋の修繕及び撤去工事を実施した。おおむね計画通り実施できているが、国庫補助金の内示率の関係で事業費が不足し、めざそう値の達成はできなかった。</p> <p>【今後の方向性】 橋梁点検の結果に基づき、優先順位の高いものから修繕工事を実施する。</p>								
4	公園愛護会団体数 (年度末時点)	46 団体	47 団体	48 団体	47 団体	47 団体	49 団体	49 団体	A	
	6-1-3 親しみやすい公園緑地を整備します									
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 日頃からボランティアで公園を管理していただいている団体等に愛護会の趣旨・目的・制度を積極的に説明し、団体数の増加に努めた。R3年度は新規に2団体の結成があり、めざそう値を達成することができた。</p> <p>【今後の方向性】 高齢化に伴い解散する団体もあることから、引き続き公園愛護会設立に向けての啓発を行う。</p>								

政策分野6 ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3																							
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課																							
5	市民意識調査「上下水道の整備」における市民満足度	40.3 %	41.0 %	46.5 %	49.0 %	46.7 %	47.2 %	41.0 %	A	<table border="1"> <caption>市民意識調査「上下水道の整備」における市民満足度</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>49.8</td> <td>49.8</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>55.7</td> <td>50.6</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>60.5</td> <td>50.6</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>61.8</td> <td>50.6</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>60.0</td> <td>50.6</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>62.2</td> <td>50.6</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績 (%)	目標 (%)	H28	49.8	49.8	H29	55.7	50.6	H30	60.5	50.6	R1	61.8	50.6	R2	60.0	50.6	R3	62.2	50.6
	年度	実績 (%)	目標 (%)																												
H28	49.8	49.8																													
H29	55.7	50.6																													
H30	60.5	50.6																													
R1	61.8	50.6																													
R2	60.0	50.6																													
R3	62.2	50.6																													
6-1-4 上下水道等関連施設の効率的な整備を進めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 上下水道事業においては、R3年度は老朽管の布設替で2,420m更新、旧簡易水道地区の濁度計・塩素計新設、非常時に備えた初倉2号水源の非常用発電機の設置をするなどの整備を進めるとともに、老朽化した水道管や天神原配水池の更新により、安全安心な水をより安定的に供給することに努めた。また、下水道事業においては、R3年度に向島町・中溝町のそれぞれ一部の管渠整備を実施し0.49haの整備エリアの拡大を完了した。上水道、下水道ともに計画的な整備を進めることが出来た結果、計画期間内すべての年度においてめざそう値を達成することができた。</p> <p>【今後の方向性】 引き続き、老朽化した水道施設の耐震化を計画的に進めることで、「安全安心な水」、「災害に強い水道」を目指す。ただし、今後は厳しい経営状況が予測されるため、これまで以上の経営努力と収益の確保が重要と考える。 下水道事業については、今後、老朽化による浄化センターの更新（ストックマネジメント）を実施し、公共下水道事業の安定的・持続的な事業運営を目指していく。</p>						水道課																								
6	超高速ブロードバンド 世帯カバー率	92.01 %	99.40 %	99.94 %	99.94 %	99.94 %	100 %	100 %	A	<table border="1"> <caption>超高速ブロードバンド 世帯カバー率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>92.01</td> <td>92.01</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>99.40</td> <td>99.40</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>99.94</td> <td>99.94</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>99.94</td> <td>99.94</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>99.94</td> <td>99.94</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>100.00</td> <td>100.00</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績 (%)	目標 (%)	H28	92.01	92.01	H29	99.40	99.40	H30	99.94	99.94	R1	99.94	99.94	R2	99.94	99.94	R3	100.00	100.00
	年度	実績 (%)	目標 (%)																												
H28	92.01	92.01																													
H29	99.40	99.40																													
H30	99.94	99.94																													
R1	99.94	99.94																													
R2	99.94	99.94																													
R3	100.00	100.00																													
6-1-5 誰もが快適に利用できる地域情報通信基盤の整備を進めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は光ファイバ網未整備地区である千葉地区へ整備を行う事業者に対して整備費用の一部を補助した。これにより光ファイバ網未整備地区への整備が完了し、超高速ブロードバンド世帯カバー率が100%となりめざそう値を達成することができた。H30年度の伊久美地区及び川根地区への整備に係る補助も含め、計画的な整備を進めることができた。</p> <p>【今後の方向性】 R3年度の整備事業費補助事業の実施により、市内全域に光ファイバ網が敷設され、ブロードバンド世帯カバー率が100%となった。今後は、全ての市民がインターネットの恩恵を受けられるよう、電子申請等のインターネットを活用した市民サービスの拡充及びインターネットを利用したことがない高齢者等へのデジタル活用支援を推進する。</p>						デジタル ランス フォーメー ション 推進課																								
施策の柱6-2 地域と地域の活発な交流を支える道をつくる（幹線道路）																															
7	この柱のみんなでめざそう値	54.7 %	48.7 %	43.2 %	44.0 %	39.4 %	40.0 %	59.7 %	D	<table border="1"> <caption>この柱のみんなでめざそう値</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>59.4</td> <td>59.4</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>55.4</td> <td>64.8</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>52.0</td> <td>64.8</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>51.8</td> <td>64.8</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>46.2</td> <td>64.8</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>49.8</td> <td>64.8</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績 (%)	目標 (%)	H28	59.4	59.4	H29	55.4	64.8	H30	52.0	64.8	R1	51.8	64.8	R2	46.2	64.8	R3	49.8	64.8
	年度	実績 (%)	目標 (%)																												
H28	59.4	59.4																													
H29	55.4	64.8																													
H30	52.0	64.8																													
R1	51.8	64.8																													
R2	46.2	64.8																													
R3	49.8	64.8																													
6-2 市民意識調査「主要な道路の整備」における市民満足度	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度に東町御請線の整備が完了し、色尾大柳線、谷口中河線、谷口道線、本通り御飯屋線、蓬萊橋線（南工区）、新病院入口交差点、道悦旭町線、島竹下線などが整備中となっている。また、ひびわれ・わだち等により走行上危険な状況となっている箇所を確保するため、本通り向谷線の舗装補修等が完了し、清水番生寺線や猪土居牧之原1号線の舗装補修を進めているところだが、市民全体の満足度の上昇にはつながらず、めざそう値の達成はできなかった。なお、国、県において、広域幹線道路の国道1号4車線化事業、国道473号金谷相良道路Ⅱ、国道473号（新東名島田金谷ICから国道1号大代IC）4車線化事業等が実施されているものの、こちらも供用開始には至っていないため、めざそう値への影響は少なかったと考える。</p> <p>【今後の方向性】 主要な道路として、色尾大柳線、谷口中河線、谷口道線、本通り御飯屋線、蓬萊橋線（南工区）、新病院入口交差点、道悦旭町線、島竹下線について引き続き整備を進めていく。国庫補助等の満額内示が得られない状況が続く中、限られた財源を踏まえて、事業の優先順位を明確にし、効率的な整備を図っていく。舗装については、劣化・破損が著しい箇所を計画的に行っていく。また、国、県に対する、国道1号4車線化事業、国道473号金谷相良道路Ⅱ、国道473号（新東名島田金谷ICから国道1号大代IC）4車線化事業などについて、今後も整備促進に向け要望を行っていく。</p>						建設課																								
8	都市計画道路の整備概成率	87.4 %	88.2 %	88.7 %	88.7 %	89.0 %	89.0 %	90.9 %	C	<table border="1"> <caption>都市計画道路の整備概成率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>87.4</td> <td>87.4</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>88.2</td> <td>89.0</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>88.7</td> <td>89.0</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>88.7</td> <td>89.0</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>89.0</td> <td>89.0</td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>89.0</td> <td>90.9</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績 (%)	目標 (%)	H28	87.4	87.4	H29	88.2	89.0	H30	88.7	89.0	R1	88.7	89.0	R2	89.0	89.0	R3	89.0	90.9
	年度	実績 (%)	目標 (%)																												
H28	87.4	87.4																													
H29	88.2	89.0																													
H30	88.7	89.0																													
R1	88.7	89.0																													
R2	89.0	89.0																													
R3	89.0	90.9																													
6-2-1 幹線道路の整備を推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 道悦旭町線、本通り御飯屋線、東町御請線等の事業を推進したが、概成済箇所の改良工事であったため、実績値が伸びずめざそう値を達成することはできなかった。また、国庫補助の内示率の影響で計画的な事業進捗に苦慮したものの、東町御請線については工事を完了することができた。</p> <p>【今後の方向性】 「島田市都市計画道路整備プログラム」に則り、限られた財源の中で効率的な道路整備の事業進捗を図っていく。</p>						建設課																								

政策分野6 ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性						所管課		
9	「国道1号線島田金谷バイパス4車線化事業」及び「国道473号線金谷相良道路Ⅱ工区整備事業」の整備率	29.2%	38.8%	45.7%	62.5%	52.4%	69.1%	80.0%	C	
	6-2-2 広域幹線道路の整備促進を行います	<p>【主な取組内容・成果・要因】 毎年、国、県に対し、早期完成のための要望活動を積極的に行い、用地交渉や説明会に同席するといった地元との調整に協力し整備促進に努めたものの、めざそう値の達成はできなかった。しかし、国、県が主となる事業ではあるが、市として積極的な働きかけや協力をしたことは、事業進捗に良い影響を与えたものと考えられる。</p> <p>【今後の方向性】 事業主体である国・県への要望活動や積極的に事業への協力をするこことで、事業の早期完了を図っていく。</p>						建設課		
施策の柱6-3 便利で魅力あるまちの拠点をつくる（都市計画）										
10	この柱のみんなめざそう値	13.9%	18.0%	14.9%	16.1%	11.9%	14.2%	14.9%	A	
	6-3 市民意識調査「計画的な土地利用の推進」における市民満足度	21.0%	28.7%	27.7%	30.4%	21.6%	28.0%	22.4%		
<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は集約型都市構造への転換を目的とした「立地適正化計画」の内容について住民説明会の開催やパブリックコメントを実施したことにより、前年度より実績値が上昇し、「わからない」「無回答」を除いためざそう値については達成することができた。「立地適正化計画」策定時以外にも、R2年度に「都市計画マスタープラン」改定時におけるワークショップ、パブリックコメント等を実施し、コンパクト・プラス・ネットワークの重要性と必要性の啓発に努めた。ただし、「わからない」「無回答」を含めためざそう値は達成できておらず、周知が不足していたと考える。</p> <p>【今後の方向性】 今年度公表した「立地適正化計画」において位置付けた、中心拠点、地域拠点到医療、福祉、商業などの都市機能を誘導集積を図るとともに、拠点周辺へ居住を誘導し、便利で魅力あるまちの拠点形成に取り組む。また、策定中の「緑の基本計画」との整合を図りつつ、都市計画公園の見直しを行うとともに、未整備公園の計画的な整備と、出前講座等によりコンパクト・プラス・ネットワークの重要性と必要性について普及・啓発することにより市民満足度の向上につなげる。</p>										
11	市民意識調査「計画的な土地利用の推進」における市民満足度（再掲）	13.9%	18.0%	14.9%	16.1%	11.9%	14.2%	14.9%	A	
	6-3-1 都市計画マスタープランを見直し集約型都市の実現を目指します	21.0%	28.7%	27.7%	30.4%	21.6%	28.0%	22.4%		
<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は集約型都市構造への転換を目的とした「立地適正化計画」の内容について住民説明会の開催やパブリックコメントを実施したことにより、前年度より実績値が上昇し、「わからない」「無回答」を除いためざそう値については達成することができた。「立地適正化計画」策定時以外にも、R2年度の「都市計画マスタープラン」改定時におけるワークショップ、パブリックコメント等を実施し、コンパクト・プラス・ネットワークの重要性と必要性の啓発に努めた。ただし、「わからない」「無回答」を含めためざそう値は達成できておらず、周知が不足していたと考える。</p> <p>【今後の方向性】 今年度公表した「立地適正化計画」において位置付けた、中心拠点、地域拠点到医療、福祉、商業などの都市機能を誘導集積を図るとともに、拠点周辺へ居住を誘導し、便利で魅力あるまちの拠点形成に取り組む。また、策定中の「緑の基本計画」との整合を図りつつ、都市計画公園の見直しを行うとともに、未整備公園の計画的な整備と、出前講座等によりコンパクト・プラス・ネットワークの重要性と必要性について普及・啓発することにより市民満足度の向上につなげる。</p>										
12	市民意識調査「心地よい景観の形成」における市民満足度	44.8%	40.1%	33.3%	39.0%	36.2%	34.5%	49.7%	D	
	6-3-2 地域景観の向上を図ります	60.3%	59.6%	56.2%	59.9%	57.7%	58.8%	65.8%		
<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は新たに川越し街道周辺地区を景観重点地区に追加するため、河原町自治会を対象に住民説明会や回覧により、景観計画の内容について周知を図った。また、景観の重要性や必要性を感じてもらうことを目的に、谷口地区のガードレールの修景作業を実施したが、限定された地域での取組であったため満足度の上昇につながらず、達成はできなかった。H30年度以降、新東名島田金谷IC周辺地区や向島町・若松町地区を景観重点地区に追加するとともに、太陽光発電設備の届出基準を設けるなど、景観形成に努めている。また、観光地エリア景観計画（蓬萊橋周辺地域、大井川鐵道沿線(金谷・五和)地域)をR1年度に策定し良好な景観形成に向けた取組みを行っているものの、心地よい景観が形成されるのは計画策定後時間を要するため、満足度の上昇が伸び悩んだと考える。</p> <p>【今後の方向性】 景観計画に位置付けている景観資源の見直しを図るとともに、計画内において美しい景観資源を見える化することにより、景観の重要性、必要性の理解促進に努める。併せて、市民協働による景観修景作業を引き続き実施する。</p>										

政策分野6 ヒト・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)		実績				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課	
13	内陸フロンティア推進区域①企業立地面積 (H30年度からの累計)	— ha	— ha	0.3 ha	0.3 ha	1.8 ha	3.7 ha	8 ha	C	
	6-3-3 新東名高速道路島田金谷インターチェンジ周辺地区(内陸フロンティア推進区域)の開発整備を進めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は、ふじのくににフロンティア推進区域内で企業1件が操業を開始し、1.9haと大きな増加となったが、めざそう値を達成することはできなかった。なお、残りの面積分については、既に企業との土地売買契約を締結済みである。</p> <p>【今後の方向性】 新東名島田金谷IC周辺地区の開発にあたっては、島田市土地開発公社による造成のほか、民間事業者の進出が容易となるよう基盤整備を進めていく。</p>								
14	内陸フロンティア推進区域②企業立地件数 (H30年度からの累計)	— 件	— 件	1 件	1 件	1 件	2 件	4 件	C	
	6-3-3 新東名高速道路島田金谷インターチェンジ周辺地区(内陸フロンティア推進区域)の開発整備を進めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は、ふじのくににフロンティア推進区域内に企業1件が新たに操業を開始したが、めざそう値の達成はできなかった。なお、目標値である4件の企業立地については、残り2件の企業との土地売買契約を締結済みである。</p> <p>【今後の方向性】 企業の立地を促進するため、新東名島田金谷IC周辺地区の開発にあたっては、島田市土地開発公社による造成のほか、民間事業者の進出が容易となるよう基盤整備を進めていく。</p>								
15	市民意識調査「富士山静岡空港を活用したまちづくり」における市民満足度	22.7 %	23.4 %	31.5 %	27.9 %	22.0 %	22.4 %	35.0 %	C (評価不可)	
	6-3-4 富士山静岡空港周辺プロジェクトを進めます	30.8 %	35.5 %	44.4 %	39.1 %	30.6 %	33.6 %	46.7 %		
16	川根温泉及び川根温泉ホテルの利用者数 (年間)	399,962 人	393,264 人	374,292 人	342,401 人	197,424 人	216,636 人	412,000 人	D (評価不可)	
	6-3-5 新たな交流拠点の形成を図ります	<p>【主な取組内容・成果・要因】 川根温泉の利用者は、R2年度に新型コロナウイルス感染症の影響で大幅に減少したため、めざそう値の達成はできなかった。そういった状況ではあるものの、川根温泉では、個人・団体への情報発信を強化するためのビジネスLINEの導入や商品陳列の見直し及び魅力ある商品の仕入れをし、川根温泉ホテルでは、レストラン運営において、基本メニューに加えて季節メニューや期間限定メニューを随時入れ替え、目新しさと食べる楽しみの付与による利用者の増加を目指した結果、R3年度については前年度に比べて利用者数を増加させることができた。</p> <p>【今後の方向性】 ウィズコロナ、アフターコロナにおける戦略を立て、川根地域における大井川流域観光拠点として地域の観光業をけん引していく。また、川根地域の各種団体と連携した体験プランや周遊メニューを造成して新たな客層を取り込んでいく。川根温泉ホテルにおいては、SLツアー客の新規取り込みはもちろん、斬新な宿泊プランやグレードの高い食事の提供により個人宿泊客へのPRを強化する。</p>								

政策分野6 ひと・地域を支える都市基盤が充実するまちづくり

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ																					
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3																							
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課																						
17	市民意識調査「公共交通機関の充実」における六合地区満足度	37.0 % 40.0 %	25.5 % 31.5 %	30.1 % 36.0 %	33.0 % 39.4 %	28.3 % 33.6 %	29.0 % 37.4 %	37.7 % 40.7 %	D	<table border="1"> <caption>グラフデータ</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績 (%)</th> <th>目標 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>40.0</td> <td>40.0</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>31.5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>36.0</td> <td>36.0</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>39.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>33.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>37.4</td> <td>40.7</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実績 (%)	目標 (%)	H28	40.0	40.0	H29	31.5		H30	36.0	36.0	R1	39.4		R2	33.6		R3	37.4	40.7
	年度	実績 (%)	目標 (%)																												
H28	40.0	40.0																													
H29	31.5																														
H30	36.0	36.0																													
R1	39.4																														
R2	33.6																														
R3	37.4	40.7																													
6-3-6 六合駅前広場の整備を進めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度は六合駅南口の駅前広場整備が完了し、道悦旭町線改良事業における道路工事も進み六合駅周辺の利便性等が向上したものの、めざそう値を達成することはできなかった。「公共交通機関の充実」は、このような利便性の向上以外にも、例えば電車やバスの本数、六合駅周辺以外の六合地区における公共交通機関の充実度合いといった他の要素による評価が大きく含まれるため、六合駅前広場整備の事業効果が数値にあまり反映されていないと分析している。</p> <p>【今後の方向性】 六合地区の主要道路である道悦旭町線は令和5年度の完成に向け、また、事業着手した谷口道線の整備を着実に進めていく。また、令和5年度に策定が完了する「地域公共交通計画」に基づき、公共交通機関の運行形態の見直しを図る。</p>							生活安心課 都市政策課 建設課																							

政策分野7 人口減少社会に挑戦する経営改革

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づ く評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
施策と内容		主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課	
施策の柱7-1 みんなの協力でまちをつくる（市民協働）										
1	この柱のみんなでめざそう値	69.6 %	60.3 %	56.5 %	57.5 %	60.4 %	56.8 %	72.0 %	A	
	7-1 市民意識調査「住民の市政への参加の推進」における重要度	82.2 %	86.1 %	81.1 %	83.4 %	86.0 %	84.3 %	83.9 %		
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 協働のまちづくり・地域主体のまちづくりを推進するため、市民活動センターの運営や、協働のまちづくり推進事業費補助金交付事業等を実施した。また、平和に向けたまちづくりを推進するため、平和祈念式典のライブ発信や高校生委員の採用を行った。実績値については、「わからない」「無回答」を除いたものはめざそう値を達成できたが、全体ではめざそう値を下回っており、住民全体の市政への参加の意識が高まっているとは言い難い状況がうかがえる。</p> <p>【今後の方向性】 市民活動団体への支援、自治会・町内会と連携した地域課題への対応など、従来から引き続き行っている市民協働の施策についてさらに推進していくとともに、少子高齢化・人口減少などによる地域社会の変化に伴う諸問題にも対応していくための新たな市民協働の施策についても研究し、取り組んでいく。</p>								
2	市民活動団体登録数（H28年度からの累計）	86 団体	96 団体	103 団体	115 団体	115 団体	114 団体	116 団体	B	
	7-1-1 協働のまちづくりを推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 市民活動センターの利用団体の登録については、広報しまだや島田市ホームページでの周知により令和元年度までは順調に件数を伸ばしていたが、R2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により伸び悩み、めざそう値を達成することができなかった。</p> <p>【今後の方向性】 今後も市の公式LINEを活用するなどし、市民活動センターの周知を図っていくとともに、市民活動に関する相談事業や情報提供事業の充実を図る。</p>								
3	まちづくり支援事業実施件数（年間）	19 件	22 件	15 件	17 件	5 件	6 件	23 件	D (評価不可)	
	7-1-2 地域主体のまちづくりを推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 島田市ホームページ等で情報を発信し、R1年度までは増加傾向となっていたが、新型コロナウイルス感染症の影響によりR2年度以降は申請件数が落ち込み、めざそう値を達成することができなかった。なお、審査に合格し交付決定した団体は、そのすべてが事業を完了することができた。</p> <p>【今後の方向性】 適正な審査を実施し、より事業の目的を達成できるような交付団体の決定を進めていく。</p>								
4	平和祈念式典参加者数（年間）	460 人	450 人	500 人	500 人	100 人	100 人	500 人	D (評価不可)	
	7-1-3 平和に向けたまちづくりを推進します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 新型コロナウイルス感染症の影響により、R2年度以降は規模を縮小して開催したため、めざそう値の達成はできなかった。ただし、市内の高校生を実行委員として採用し式典の運営参加や企画の立案と実施、また式典の様子をライブ配信する等、これまで課題であった若い世代の情報発信に力を入れたほか、様々な形で多くの市民に関わってもらえる機会を創ることができたと考えられる。</p> <p>【今後の方向性】 戦後77年が経過し、戦争を知らない世代が人口の8割以上を占め、平和の尊さに対する認識は風化の一途をたどっている。また、戦争体験者や遺族の高齢化に伴い、平和祈念事業への参加者が減少している中で、若い世代への継承が課題となっている状況である。高校生委員の採用を継続するなど、若い世代の参加を今後も推進していく。</p>								

政策分野7 人口減少社会に挑戦する経営改革

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値			目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ	
		H28	H29	H30	R1	R2	R3			
	施策と内容	主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課	
9	電子申請システム手続種別件数(年間) 7-2-4 行政情報システムの安定運用・最適化に努めます	43件	49件	59件	62件	96件	184件	73件	A	デジタルトランスフォーメーション推進課 
施策の柱7-3 都市間連携による地域の活性化を進める(広域連携)										
10	この柱のみんなめざそう値 7-3 「しずおか中部連携中枢都市圏ビジョン」KPI達成度	— %	71.4 %	65.4 %	61.2 %	12.1 %	31.9 %	100 %	D (評価不可)	戦略推進課 
	【主な取組内容・成果・要因】 R2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、SLフェスタでは荒天が重なり予定していた屋外イベントが中止となったこと、R3年度は、静岡県のまん延防止措置期間と重なったためSLフェスタが中止となったことなどにより、来場者数は大幅に落ち込みめざそう値を達成することができなかった。 【今後の方向性】 R4年3月にR4年度からR8年度までの5年間を計画期間とする「第2期しずおか中部連携中枢都市圏ビジョン」が策定され、引き続き活力ある社会経済を維持するために、静岡県中部の5市2町が連携して様々な取組を行うことになった。そのため、大井川流域ニューツーリズム推進事業では、奥大井までを含めた大井川流域において、大井川鐵道と豊かな自然環境を効果的に活用したイベントを継続して開催し、沿線地域の活性化を推進する									
11	広域連携関連事業の「めざそう値」達成度 7-3-1 近隣市町と連携した広域行政を推進します	— %	— %	25.0 %	40.0 %	75.0 %	0 %	100 %	D (評価不可)	戦略推進課 
	【主な取組内容・成果・要因】 大井川ニューツーリズムイベント参加者数は、新型コロナウイルス感染症の影響によるSLフェスタの中止等により大幅に参加者数が落ち込み、大井川の清流を守る研究協議会に係る指標については、大井川流域にある他市町の住民の関心の高まりもあり、目標を達成できなかった。これまで達成度は上昇を続けていたものの、最終的には外的要因の影響を大きく受け、めざそう値の達成はできなかった。 【今後の方向性】 この地域の持つ資源を最大限に活かし、近隣市町と連携・協力することで、それぞれの持つ総和以上の総合力を発揮し、一体的発展を引き続き目指す。イベントの集客数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状況が続くことが想像されるが、ニーズにあった魅力的な事業の実施や、効果的な情報発信をすることで目標を達成したい。									
12	富山県氷見市姉妹都市提携事業における公募参加人数の割合 7-3-2 県外自治体との連携を推進します	— %	75 %	0 %	0 %	0 %	0 %	50 %	D (評価不可)	市民協働課 文化資源活用課 
	【主な取組内容・成果・要因】 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、姉妹都市提携事業における相互訪問を実施できていないため、めざそう値の達成はできなかった。H29年度の氷見市訪問時、「隔年で相互訪問し、互いのまちづくりの手法を学んでいく」ことを氷見市担当課と確認しているが、先方からの訪問がないまま現在に至っている。 【今後の方向性】 当事業の企画立案時に参考にしていただいていた氷見市の協働のまちづくりに関する施策は、近年では県内や近隣県での参考事例もあることから、費用面などにおいて、遠方の氷見市へ訪問する利点は減少している。しかし、姉妹都市提携による「住民の福祉の増進を図る」ため、行政と民間が連携して都市間交流を進めていく必要がある。アフターコロナやウィズコロナに向けて、今後は姉妹都市提携を契機とした行政間の交流をはじめ、スポーツ団体の交流、商会議所や信用金庫による経済交流、観光協会による観光交流などの、民間団体間の交流を進めていく方向である。									

政策分野7 人口減少社会に挑戦する経営改革

No.	めざそう値 指標	基準値 (計画策定時)	参考	実績値				目標値 (めざそう値)	進捗率に基づく 評価	グラフ
		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3		
	施策と内容	主な取組内容・成果・要因・今後の方向性							所管課	
施策の柱7-4 公共施設を賢く持って、賢く使う（公共施設の保存・再編・利活用）										
13	この柱のみんなだめざそう値 7-4 公共施設管理運営費の市民1 人当たりの負担額	19,766 円/人	20,122 円/人	20,597 円/人	21,315 円/人	22,672 円/人	24,085 円/人	19,000 円/人	D	
		<p>【主な取組内容・成果・要因】 R3年度から公共施設包括管理委託を導入し、予防保全型維持管理に具体的に取り組み始めているが、成果がすぐに表れずめざそう値を達成することはできなかった。実績としては4年間増加となっているが、この要因としては、人口減少により分母が縮小していること、使用料収入が減少していること、プラント系施設の特殊な設備の保守点検や更新に係る費用が増加していることが主なものとなっている。</p> <p>【今後の方向性】 特殊な設備の保守点検や更新にかかる費用の増加が今後も見込まれることを踏まえ、包括施設管理委託方式による施設の品質向上を通して突発的な支出の抑制につなげるといった取組を継続し、1人当たり負担額の上昇の抑制に努める。</p>						資産活用課		
14	公共施設のあり方に対し関心を持っている市民の割合	— %	82.7 %	68.1 %	67.0 %	68.6 %	67.3 %	85.0 %	D	
	7-4-1 公共施設のあり方検討を進めます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 R2年度からR3年度にかけて、金谷地区生活交流拠点整備運営への公民連携手法の導入、学校施設跡地等の利活用といった個別事業を推進したが、これらの事業が公共施設のあり方検討の結果に基づいた取組であるという認識が市民の間に広まらず、数値の大きな変化は見られずめざそう値を達成することはできなかった。H29年度からH30年度にかけての数値の下落は市民意識調査の調査票の設計に変更があったことによるものであるが、それ以外の期間については60%台後半で推移した。毎年度一定の関心は得られているものの、公共施設の再編や利活用に関する個々の事業の展開に応じて、公共施設のあり方への関心が大きいに高まるといった状況とはならなかった。これは、個々の事業に関する情報発信が全般的に不足していたことが主な要因と考える。</p> <p>【今後の方向性】 民間事業者からの提案による旧湯日小学校や旧伊久身農産物加工体験施設やまゆりの利活用などの実例や、今後実施される北部4小学校の閉校後の利活用について積極的に発信することを通して、公共施設に対する関心度の一層の向上を図る。</p>						資産活用課		
15	公共施設の資産老朽化比率	56.9 %	58.2 %	59.3 %	61.2 %	62.7 %	63.9 %	57.0 %	D	
	7-4-2 効率的に公共施設を整えます	<p>【主な取組内容・成果・要因】 経年により減価償却累計額は増加していく。R3年度についても減価償却額が投資的経費を上回ったことから、比率が上昇しめざそう値を達成することはできなかった。当初から一貫して比率が上昇しており、経年による減価償却に対し更新のための投資が追いつかない状況である。これは、財政状況が厳しく公共施設の老朽化対策に係る予算の確保が困難になっていることが一因と考えられる。</p> <p>【今後の方向性】 整備から相当の年数が経過している公共施設等が増加している中で、長寿命化や予防保全、維持管理、修繕費などトータルコストの縮減に向けた取組を実施する。総人口が減少する中、公共施設数のスリム化に向けた取組を実施する。</p>						資産活用課		
16	公的不動産の管理・活用に向け公民連携手法の導入を検討した案件の数（H28年度からの累計）	1 件	2 件	3 件	3 件	9 件	10 件	10 件	A	
	7-4-3 公的不動産を戦略的に管理・活用します	<p>【主な取組内容・成果・要因】 H28年度から継続して、公民連携手法の導入を検討した案件数を増加させることができ、めざそう値を達成することができた。R2年度には公募型プロポーザル方式により優先交渉権者を決定した湯日小学校跡地利活用事業について、令和3年9月に定期建物賃貸借契約を締結し、民間事業者による資産の活用を図った。</p> <p>【今後の方向性】 「公共施設マネジメント民間提案制度」の運用を通して、小規模な市有地の利活用や公共施設の管理の効率化に資する取組等への公民連携の導入可能性について引き続き検討する。</p>						資産活用課		